

要約

AutoCAD[®] は進歩を続け、デザイン コミュニティのあらゆる場面に対応したプラットフォームへと発展しています。CAD ツールを使用して技術文書や工事資料を作成する作業は、企業の業務プロセスの 5 % にも満たないと見られています。ただ、忘れてはならないのは、企業が提供する製品やサービスの実に 95 % が、そうした設計や技術に依存しているという点です。

既存の設計データと数百万におよぶ DWG ファイルを活用するには、情報を作成するだけでなく、情報を取り出し、活用するツールが必要です。設計作業を統合する製品とそれを支えるインフラが必要なのです。こうしたニーズはますます高まりつつあり、AutoCAD は、その拡大するニーズに対応する使命を担っていると認識しています。

AutoCAD[®] 2002 は引き続き、使い易さを向上し、優れた生産性ツールを新たに提供し、また、既存の CAD データとの互換性を備えています。AutoCAD は、CAD 図面の標準を管理し、設計チームの共同作業 (コラボレーション) を実現して、設計データを最大限に活用することを支援します。

AutoCAD 2002 は、図形を操作することで寸法や注釈がそれに合わせて変化する自動調整寸法機能などで、日々の設計活動を改善します。製図担当者には、新しい画層や属性を管理するツールもすぐに利用できるはずです。

設計データを公開する場面では、機能向上した DWF (Drawing Web Format) フォーマットと、オートデスク のビューワソフト、Volo[™] View や Volo[™] View Express から直接、図面を印刷できます。Web に公開の機能は、今回のリリースでさらに機能拡張され、新たなテンプレートとテーマが追加され、出力結果をカスタマイズできるようになりました。

企業標準、業界標準を基準として設計図面を検証する役割の CAD 管理者向けには、新たな社内図面標準管理ツールも追加されています。この機能によって、CAD 管理者は、標準に準拠していない図面をチェックし、図面の標準化を推進する強力なツールを手に入れました。設計チーム内の情報連携、設計プロセスの効率化、設計ツールに対する投資効果が期待できます。

AutoCAD は一層のデータ共有とデータ再利用を目指し、i-drop[™] 技術を製品内に組み込みました。i-drop を使用すると、メーカーの Web サイトにあるインテリジェントなデザイン コンテンツを直接、図面内に取り込むことができます。さらに、i-drop の機能では、オブジェクトの形状に加えて、関連のスペックシートやコストなどの重要な情報をそのコンテンツに連動して、図面上に取り込むことができます。このデータは、AutoCAD 2002 のツールを使用して取り出し、部品表を作成するのに利用できます。

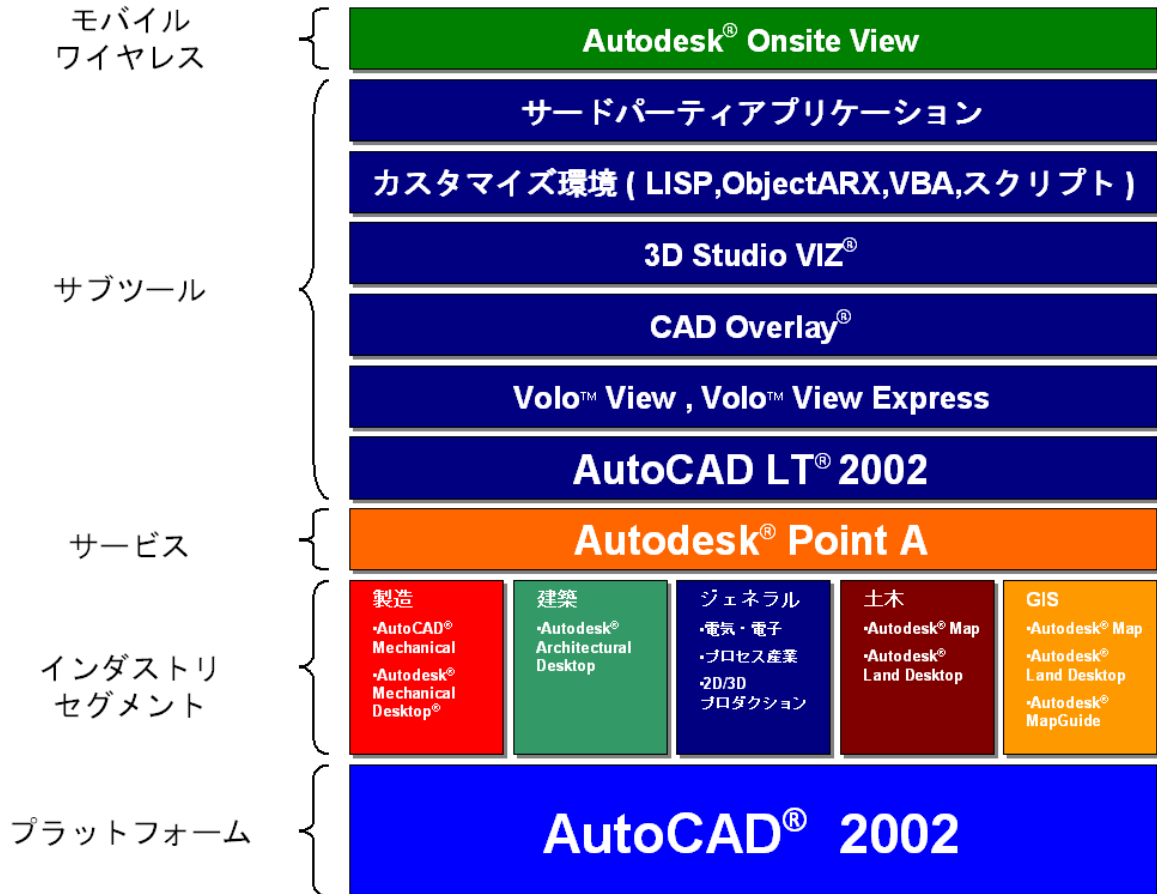
AutoCAD 2002 は、オートデスクの各業種向けデスクトップ製品のプラットフォームとなっています。

- Autodesk[®] Architectural Desktop
- Autodesk[®] Mechanical Desktop[®]
- AutoCAD[®] Mechanical
- Autodesk[®] Land Desktop
- Autodesk[®] Map

各製品は、ベースとなる AutoCAD の機能をすべて備え、さらに各業種のニーズに応じた設計機能が追加されています。

各デスクトップ製品は、AutoCAD をプラットフォームとしているので、各製品と相互にデータの共有を図ることができ、設計チームの共同作業の効率を高めることができます。

3,000を超えるパートナーアプリケーション、Visual LISP™、ObjectARX®、Microsoft の VBA プログラミング言語による完全なカスタマイズ環境、ハンドヘルドやワイヤレスソリューション、プロジェクトホスティングおよび調達サービスのプラットフォームとして、AutoCAD 2002 は最高の設計ツールになっています。



この概説書では、AutoCAD 2002 の新たな機能と利点を紹介します。この製品は、AutoCAD 2000 および AutoCAD 2000i の技術を基盤として開発されています。次の表は、AutoCAD 2002 にも組込まれている、これらの製品に共通の機能の一覧です。

AutoCAD 2000 および AutoCAD 2000i の機能

Heads-up Design (ヘッズ アップ デザイン) 環境

マルチ デザイン環境 (MDE)
AutoCAD DesignCenter™
AutoSnap™ および AutoTrack™ の拡張
インテリマウスのサポート - リアルタイムズームと画面移動
QDIM (クイック寸法)
部分オープンと部分ロード
ビューポートごとの UCS
インプレイス外部参照とブロック編集

アクセスと使いやすさの向上

オブジェクト プロパティ ウィンドウ
検索 - 文字の検索/置換
クイック選択 - すばやい選択セットの作成
オブジェクト プロパティ ツールバー
コンテキストメニュー - 右クリック ショートカット メニュー
ソリッド編集機能の拡張
図面のプロパティ
文字機能の拡張
画層プロパティ 管理
拡張されたシンボル名 (ESN)
寸法機能の拡張
境界ハッチング ダイアログの拡張
アプリケーション ロード / ロード解除 ダイアログ
スタートアップ ダイアログ
コマンド ラインの標準化
名前を付けて保存

インテリジェントな出力機能

レイアウト - 複数のペーパー空間
矩形以外のビューポート
印刷機能の拡張
線の太さ
OLE オブジェクトのサイズ
True カラーサポート
重ね書きコントロール
True color 印刷スタイル
プリンタと用紙サイズのフィルタ

カスタマイズによる柔軟な拡張性

Visual LISP 開発環境の統合
完全なオブジェクト指向
ActiveX の拡張とイベント
VBA プロジェクト
オプション (基本設定) ダイアログ
API の拡張
ObjectDBX™ / ObjectARX

パフォーマンスと簡単さ

ファイル操作の更新
パフォーマンスの向上
UCS アイコン
再作図しないタブ切り替え
マルチプロセッサ対応
ファイルの読み書きおよびメモリ管理の改善
TrueType フォントのキャッシュ

3D 性能

3D オービット
Z 値を保持したオービット
Heidi® - 3D グラフィックス パイプライン

既存機能の強化

複数のポリラインの編集
延長とトリムの組み合わせ
画層情報

AutoCAD LT の機能の統合

ハッチングのドラッグ&ドロップ
名前削除 ダイアログ - 新しいユーザ インタフェース
配列複写 ダイアログ

インターネットによるデザイン設計

AutoCAD Today
Web に公開
オンライン ミーティング
ハイパーリンクを挿入 ダイアログ
e-トランスミット
i-drop
ダイレクトブラウザ アクセス
オブジェクト ハイパーリンク
ePlot -DWF ファイルの電子的な印刷
DbConnect -外部データベースの接続
DXF™ の拡張

ユーザ アシスタンス

HTML ヘルプ
アクティブ アシスタンス
データベース検索のサポート

容易なセットアップと実装

E-レジストレーション
ネットワークサポートの拡張
AutoCAD Learning Assistance™ (ALA)
AutoCAD Support Assistance (ASA)

目次

■ 強力な CAD プラットフォーム	5
自動調整寸法.....	5
属性ツール.....	7
ブロック属性管理.....	8
[属性編集] ダイアログ.....	9
属性編集.....	10
ブロックの属性情報の書き出し.....	12
画層ツール.....	16
画層標準を適用.....	16
画層復元.....	17
文字の尺度変更.....	18
■ 接続とコラボレーション	18
AutoCAD 2002 Today.....	20
オンライン ミーティング	21
Web に公開.....	21
i-drop.....	24
e-トランスミット.....	25
ファイル操作.....	27
DWF フォーマットのアップデート.....	28
Volo View と Volo View Express	29
DesignXML.....	30
オートデスク Point A.....	31
■ 社内図面標準の管理.....	32
CAD 標準管理.....	32
対話型の監査.....	34
バッチ監査.....	35
要約レポート情報	36
■ ライセンス	37
FLEXlm ネットワーク ライセンス対応.....	37
柔軟なライセンス モデル	37
■ 容易なセットアップと実装.....	38

強力な CAD プラットフォーム

新しいリリースのたびに、AutoCAD には顧客が最も望む作図機能が追加されています。追加されるのは、設計チームが速く、スマート作業できるようにする生産性強化の機能です。AutoCAD 2002 では、あらゆる設計者が利用する寸法、ブロック属性、画層を制御する機能を重点的に強化しました。

自動調整寸法

自動調整寸法は、図形オブジェクトと、その長さや角度を示す寸法表現に関する機能です。自動調整寸法は、関連付けられた図形オブジェクトが修正されると、自動的にその位置、向きおよび計測値を調整し、その図形に連携した寸法に自動的に反映されるため、図面の整合性が向上します。また、編集操作も最小限で済むために、大変使い勝手の良い機能に仕上がっています。

モデル空間のオブジェクトに対し、ペーパー空間上に書いた寸法 (空間をまたがる参照) に対してもこの機能が適用されます。モデル空間の図形を修正しても、寸法を自分で修正する必要がなくなりました。モデル空間の図形とペーパー空間の寸法の連携については、兼ねてから要望の多い機能でした。

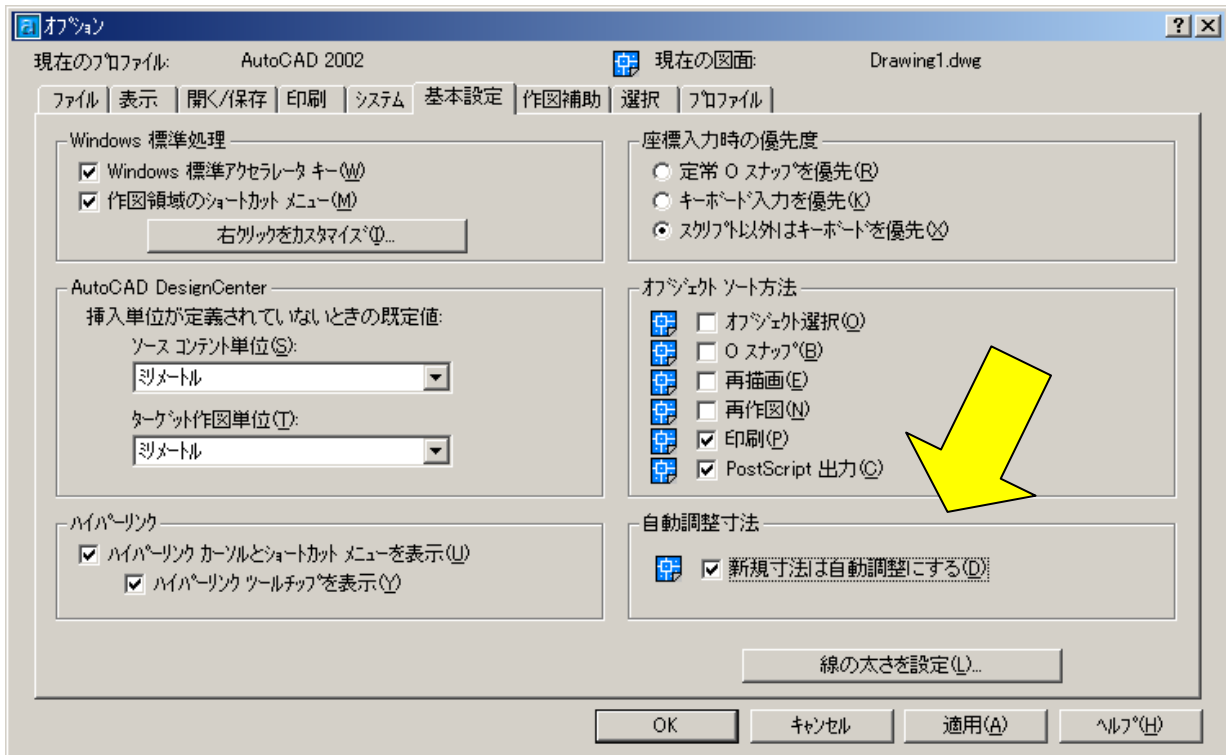
自動調整寸法を有効にするための操作: 新しい図面を作成すると、自動調整寸法はデフォルトで有効になります。以前作成した図面の場合、この機能は **DIMASSOC [自動調整管理]** コマンドを使用して、後からこの設定を有効にできます。

値 **2** (または **ON**) によってこの機能を有効にする

値 **1** は非自動調整寸法を作成

値 **0** は分解された寸法を作成

この機能を有効にするための切り替えは、[オプション]>[基本設定]でも行えます。



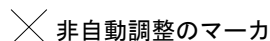
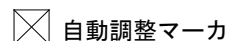
自動調整寸法の更新: DIMREGEN [寸法位置更新] コマンドは、現在の図面内のすべての自動調整寸法を強制的に更新します。インテリマウスのホイールを使用して画面移動や拡大縮小を行った後や、AutoCAD の以前のリリースで修正した図面を開いた後、修正された図面を外部参照で開いた後には、DIMREGEN コマンドを使用して、自動調整寸法を更新しなくてはならないことがあります。

従来の寸法の関連付け: DIMREASSOCIATE [寸法自動調整再割り当て] コマンドを使用して、非自動調整寸法をオブジェクトまたは図形の定義ポイント (オブジェクトのスナップ位置) に関連付けることができます。

DIMREASSOCIATE コマンドを実行すると、まず、1つ以上の寸法オブジェクトの指定が求められます。オブジェクトは寸法、ロックされた画層、不正な空間などの更新を妨げる属性によってフィルタリングされます。

選択した寸法ごとに順次、寸法がハイライトされ、その寸法タイプに必要な各関連の定義ポイントを指定するように求められ、各関連ポイントにマーカが表示されます。このマーカは関連ポイントの処理後に削除されます。

マーカの形は、マーカの位置の寸法オブジェクトが自動調整かどうかによって異なります。



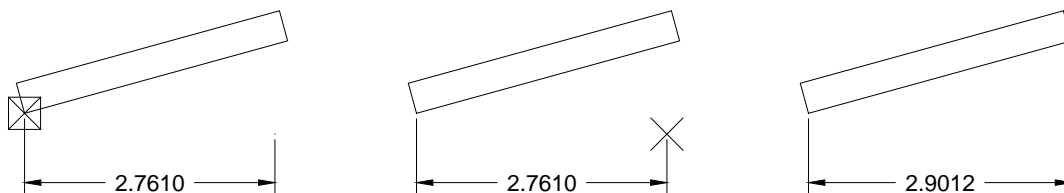
新しい関連ポイントはオブジェクトにスナップすることによって選択できます。また、[Enter] キーを押すと、関連ポイントを個別にスキップできます。この操作では、定義ポイントが関連付けられているかどうかを問わずその現在の状態は変わりません。関連付けることのできない新しいポイントを選択した場合、寸法ポイントが関連付けられなかったというメッセージが表示され、次のポイントの処理に移ります。

1 本目の寸法補助線の起点を指定 または [オブジェクトを選択(S)] <次>:
 <空き空間またはオブジェクトスナップをアクティブにしないで選択>
 寸法点を再び関連付けられません。
 2 本目の寸法補助線の起点を指定 <次>:

[オブジェクトを選択] を選択した場合は、オブジェクトの選択を要求するプロンプトが表示されません。オブジェクトを選択していない場合、または適切なオブジェクトを選択していない場合は、警告メッセージが表示され、再びオブジェクトの選択を求められます。[Enter] キーを押した場合、現在の設定状態を変更せずに次の処理に進みます。

1 本目の寸法補助線の起点を指定 または [オブジェクトを選択(S)] <次>: S
 オブジェクトを選択: <空き空間を選択>
 オブジェクトが選択されていません。
 オブジェクトを選択: <無効なオブジェクトを選択>
 選択されたオブジェクトは線分、円弧 または 円ではありません。
 オブジェクトを選択:

次の 3 つの図は、長方形に部分的に関連付けられている長さ寸法の再関連付けを示しています。最初の寸法補助線はすでに関連付けられているので、自動調整マーカ (マーカの形は四角の中に X 印がある形) になります。2 つめの寸法補助線は関連付けられていないため、非自動調整マーカ (マーカの形は X 印) になります。新しい関連ポイントを選択すると、寸法は自動更新され新しい関連ポイントに完全に関連付けられます。



関連付けの削除: DIMDISASSOCIATE [寸法自動調整解除] コマンドは、自動調整寸法の設定がされた寸法オブジェクトの関連付けを解除します。

選択を完了すると、寸法の関連付けが解除され、修正された寸法オブジェクトの数が表示されます。

属性ツール

属性とは、テキストデータをブロックにアタッチするラベルまたはタグです。属性に含まれるデータの例としては、部品番号、価格、注釈および所有者名などがあります。タグは、データベース テーブルの列名と同じです。図面から抽出した属性情報は、表計算プログラムまたはデータベースで部品リストや部品表を作成するときに使用できます。各属性のタグが異なる場合は、ブロックに複数の属性を関連付けることができます。

この属性情報の管理と書き出しを簡単に行える属性ツールが開発されました。

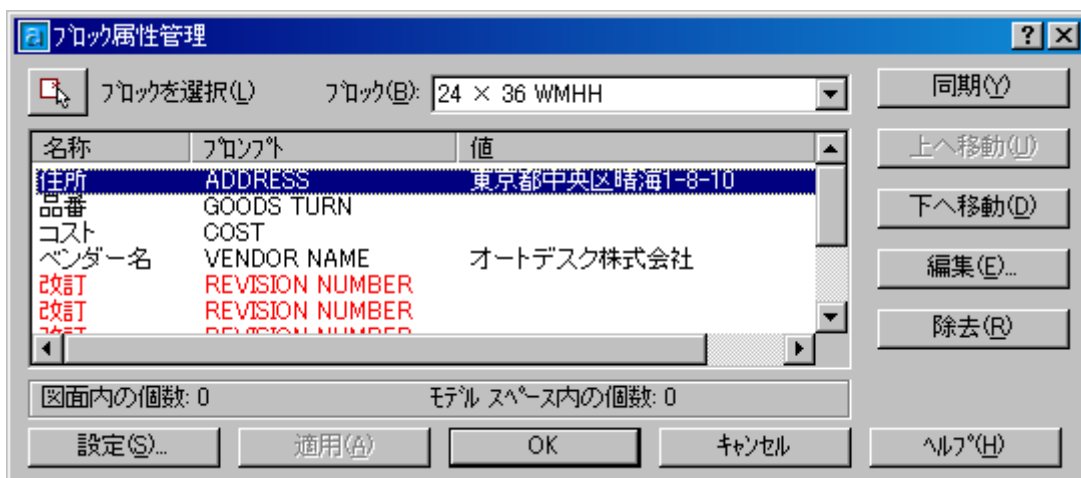
ブロック属性管理

ブロック属性管理を使用すると、ブロックの分解または再定義を行わずに、ブロック内の属性を簡単に修正できます。変更内容は即座に既存のブロック挿入に反映されます。次のような操作が可能です。

- ブロック定義から属性を削除する。
- 属性の順序を変更する。これは [属性編集] ダイアログ で属性が表示される順序と、ブロック挿入時の属性入力の順序に影響します。
- 既存のブロック参照内の属性をブロック定義テーブルと合致するように強制的に更新します。この更新処理は、属性の値には影響しません。
- 属性の名称、プロンプト文字列および既定値などを変更します。
- 属性の文字設定を変更します。
- 属性のプロパティを変更します。
- 選択した列の情報を表示し、余分なタグ名をハイライト表示するように、メイン属性リストをカスタマイズします。

デフォルトでは、ブロック属性管理を使用して属性に加えた修正はすべて、そのブロックの既存の参照すべてに反映されます。この動作は、[設定] ダイアログ で、新しいブロック挿入だけが変更の影響を受けるように設定することもできます。

[**ブロックを選択**] ボタンで、現在の図面のブロック属性を選択できます。ブロック オブジェクトを選択すると、編集すべきブロック定義テーブルの名前が決まります。この名前をブロック リストで選択すると、そのブロックの属性情報が属性リストに表示されます。ブロック オブジェクトで属性を選択すると、属性リストでその属性がハイライト表示されます。



[**ブロック**] ドロップダウン リストには、ブロック テーブル内のブロック属性がすべて表示されます。このリストには、属性を含まないブロックは表示されません。ブロックを選択すると、属性リストには、選択したブロックに含まれる属性が表示されます。現在の図面で以前、ブロック属性管理を使用したことがある場合は、起動時に最後に編集したブロックと属性が選択されます。最後に編集したブロックが既に存在しない場合は、リストの最初のブロックが選択されます。

属性リストには、現在選択中のブロックで定義されている属性に関する情報が表示されます。特定の列の情報を表示し、余分なタグ名をハイライト表示するようにカスタマイズできます。

[同期] ボタンは、ブロック リストに表示されているブロックの既存の参照すべてを強制的に更新して、ブロック定義テーブルと一致するようにします。この更新処理は、属性の値には影響しません。この同期処理は、ブロックを編集すると自動的に実行されます。

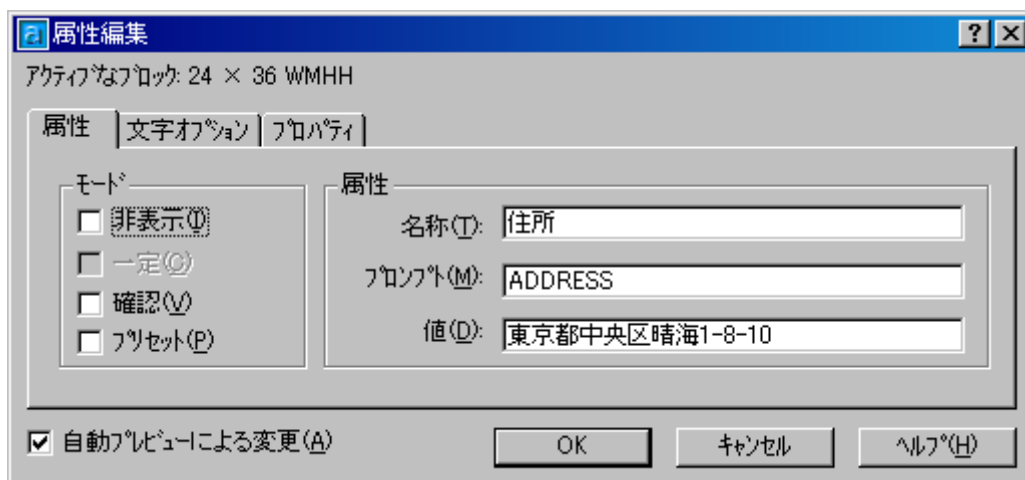
[編集] ボタンをクリックすると、[属性編集] ダイアログが表示されます。

[属性編集] ダイアログ

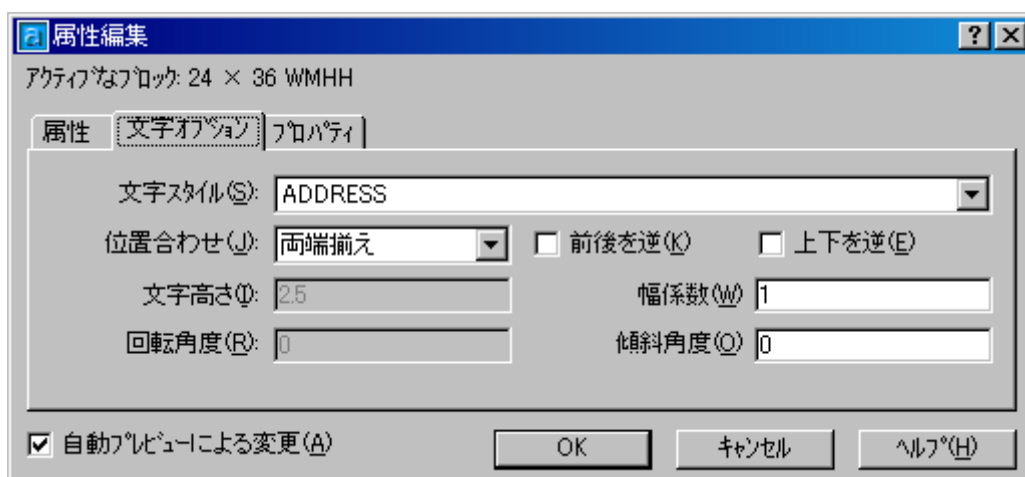
[属性編集] ダイアログは、ハイライト表示された属性の異なる側面を編集する3つのタブから構成されています。

[自動プレビューによる変更] をオンにした場合、属性の視覚的表現に影響する変更を加えると、その結果が自動的に画面に表示されます。これにより、編集内容が実際にブロック属性にどのような影響を及ぼすかを確認できます。

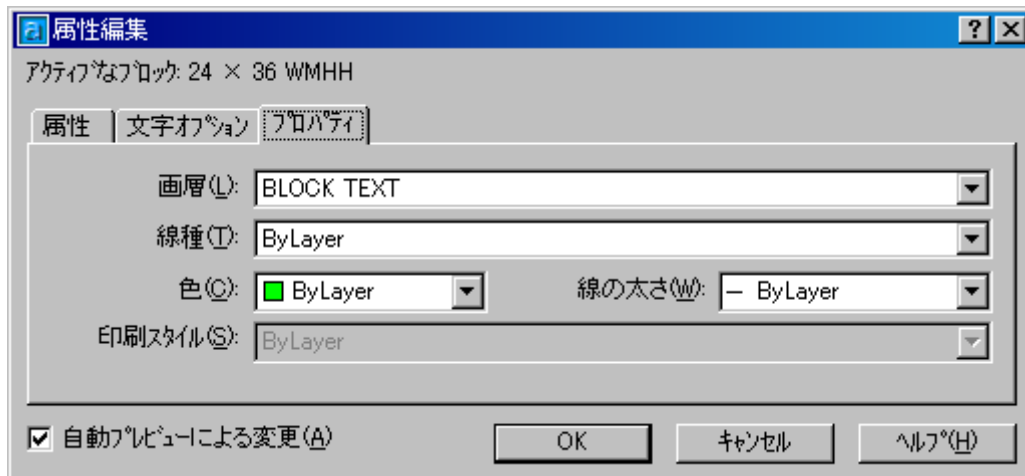
[属性] タブでは、モード、属性の名称、プロンプト文字列および既定値を編集できます。



[文字オプション] タブでは、属性の文字関係のプロパティに影響する値（属性文字の位置合わせ、文字スタイル、高さおよび回転角度）を編集できます。



[プロパティ] タブでは、画面での操作時または印刷時に、属性の一般的外観に影響する値を編集できます。



属性編集

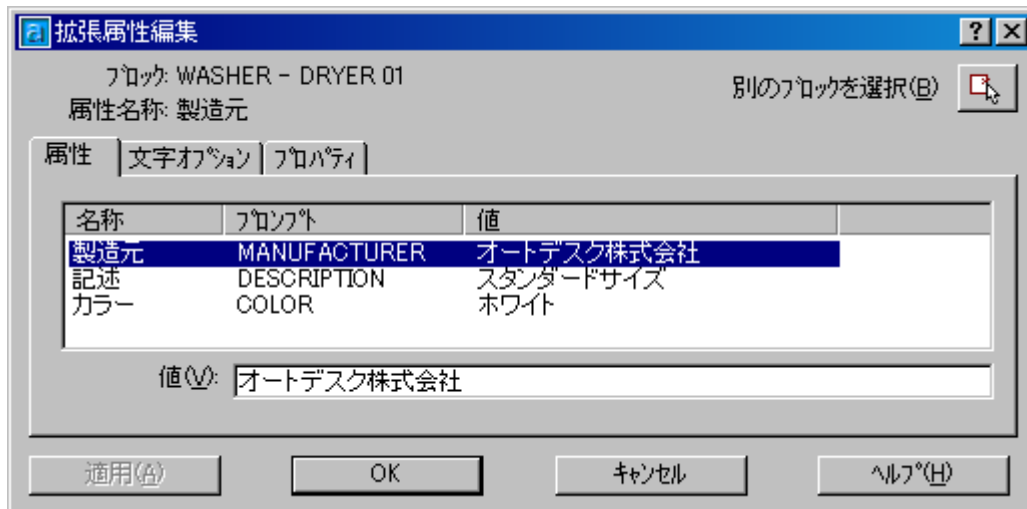
属性編集は、既存の DDATTE / ATTEDIT [属性編集] コマンドおよび -ATTEDIT コマンドを強化するもので、選択したブロック参照内の属性の編集が可能です。属性の値、文字関係の設定およびプロパティを編集することができ、変更結果はすべて即座に AutoCAD の画面に自動的に表示されます。

属性編集では、選択したブロック参照内の属性の編集が可能です。その機能とユーザ インタフェースはブロック属性管理と同様ですが、選択したブロック参照のみを編集できます。属性編集は、DDATTE / ATTEDIT および -ATTEDIT の代わりとなるように設計されています。以前の属性編集コマンドと違って拡張された属性編集では、あらゆる文字関係のオプションとプロパティを編集でき、変更結果はすべて即座に AutoCAD の画面に自動的に表示されます。

メイン ダイアログ は、選択したブロック属性の異なる側面を編集する 3つのタブから構成されています。

[別のブロックを選択] ボタンで、編集する現在の図面のブロック属性を選択できます。選択したブロックの名称が ブロック フィールドに表示され、その属性情報が属性リストに表示されます。

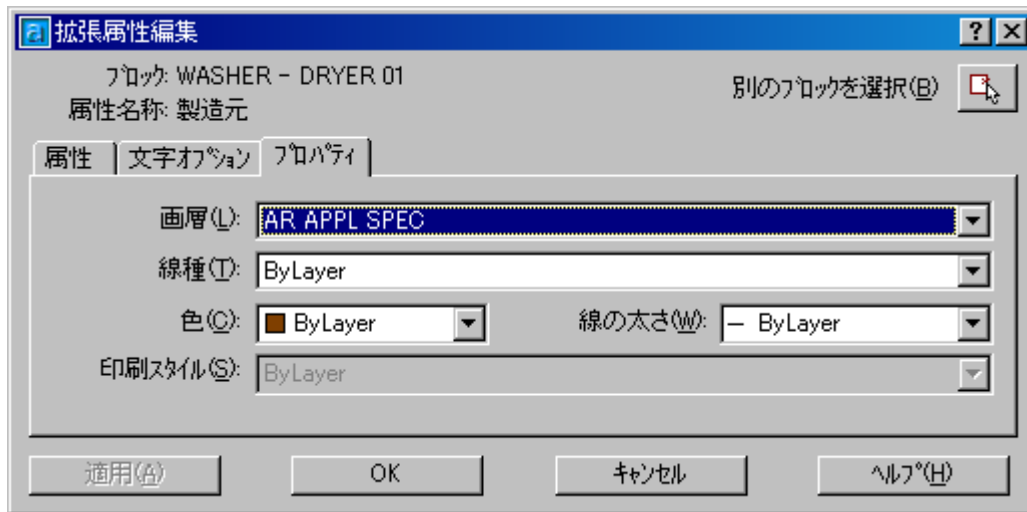
[属性] タブには、選択したブロックで定義されている属性に関する情報がリスト表示されます。リストで属性を選択すると、その値が [値] フィールドに表示され編集可能になります。



[文字オプション] タブでは、属性の文字関係のプロパティに影響する値（属性文字の位置合わせ、文字スタイル、高さおよび回転角度）を編集できます。



[プロパティ] タブでは、画面での操作時または印刷時に、属性の一般的外観に影響する値を編集できます。



ブロックの属性情報の書き出し

属性書き出しツールを使用すると、カンマ区切り形式 (.CSV)、TDF 形式 (.TXT)、Microsoft® Excel 形式 (.XLS) および Microsoft® Access 形式 (.MDB) でブロック属性データを簡単に書き出すことができます。ブロックと属性へのエイリアスのアタッチ、複数図面と外部参照アタッチからのデータの公開、選択したブロック、属性およびエイリアス情報のテンプレートの保存と任意の図面または図面セットでの再利用ができます。

属性書き出しツールは、指示に従って操作すれば属性書き出しを実行できるウィザードです。

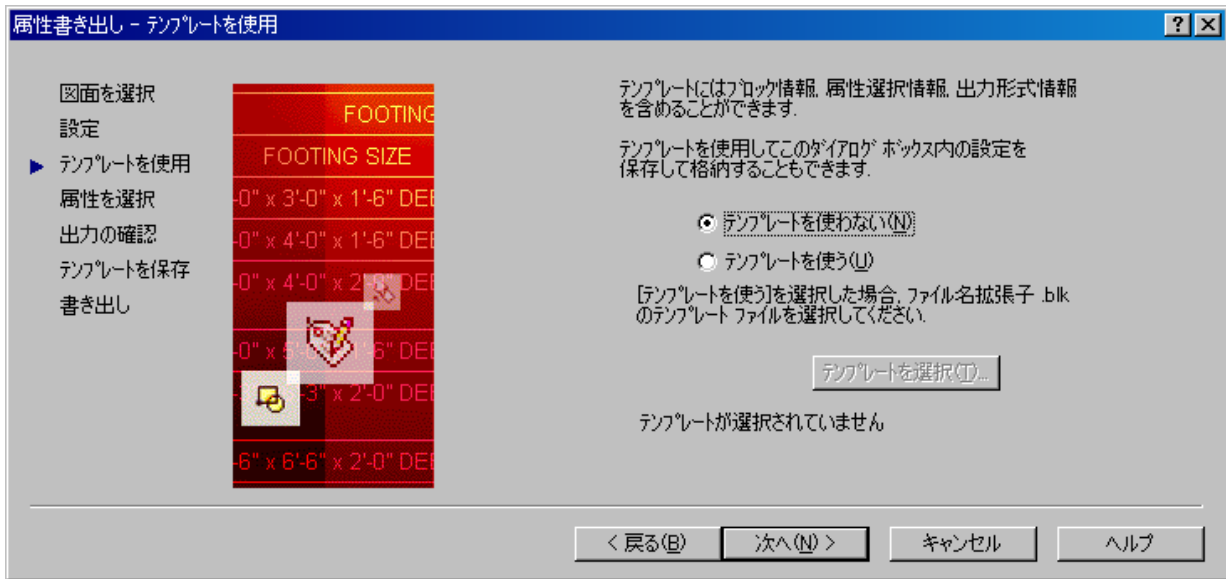
【図面を選択】 ダイアログでは、属性データの書き出し元を指定します。現在の図面から選択セットを作成したり、現在の図面のブロックすべてを選択したり複数の図面を選択できます。



【設定】 ダイアログでは、外部参照ファイル (Xref's) とネストしたブロックを検索対象に含めることができます。

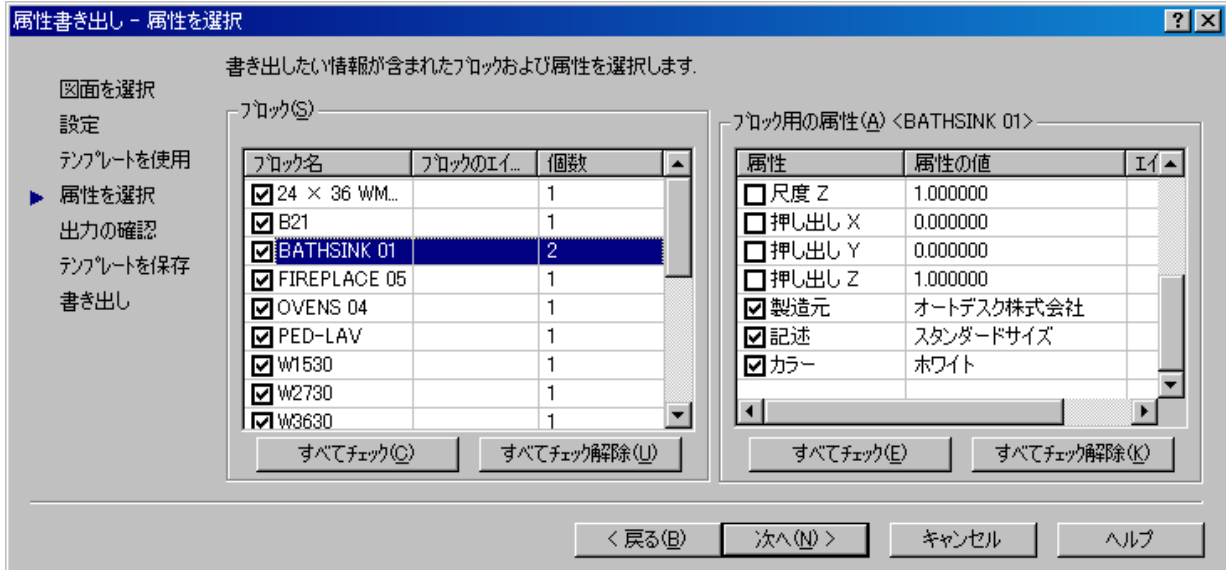


[テンプレートを使用] ダイアログでは、ブロック テンプレート ファイル (.blk) を選択します。ブロック テンプレート ファイルには、出力に含まれる属性とブロックに関する情報が格納されます。



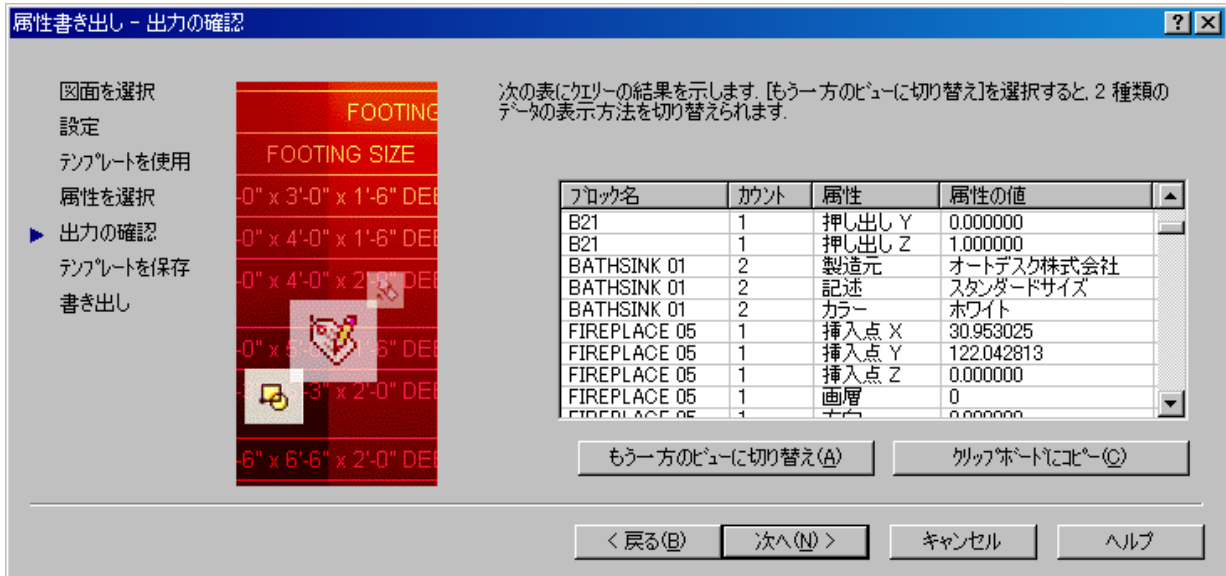
[属性を選択] ダイアログは、次の 2 つの部分からなります。

- [ブロック] リストには、選択した図面内のブロックが表示されます。[エイリアス] 列で各ブロックに名前を付けることができます。[個数] 列には、各ブロックの個数が表示されます。
- [属性] リストには、選択したブロックに対応する属性がその値とともに表示されます。[エイリアス] 列で各属性に名前を付けることができます。

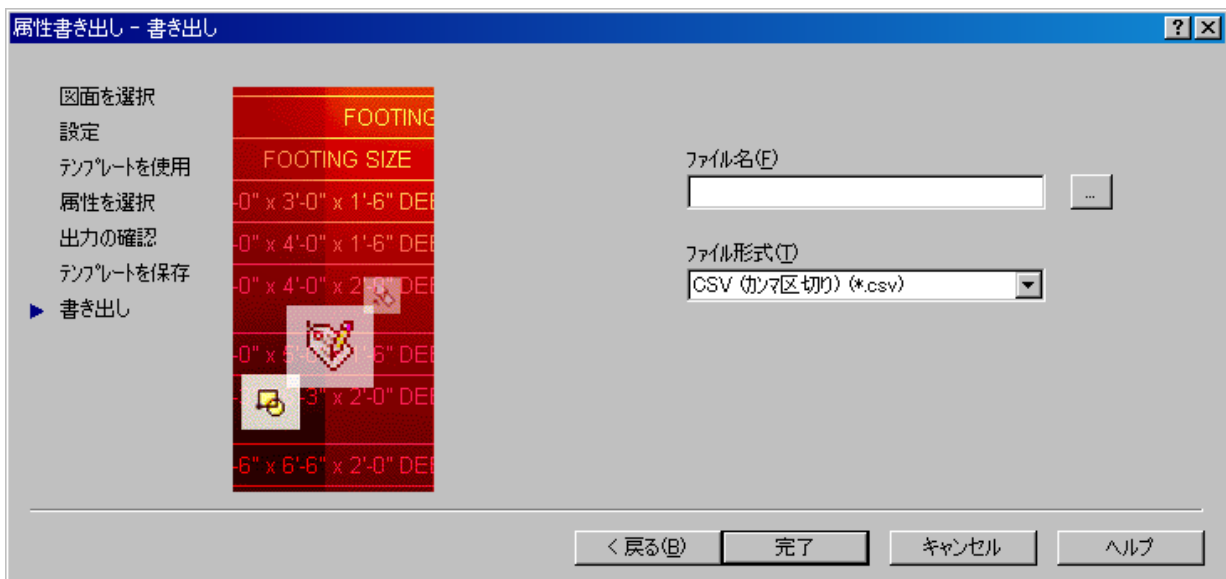


選択内容は、ブロック テンプレート ファイルに保存できます。

【出力の確認】ダイアログには、書き出し結果が表示されます。



【書き出し】ダイアログでは、書き出したデータセットをカンマ区切り形式テキストファイル(.CSV)に出力できます。Microsoft Excel または Microsoft Access をインストールしている場合は、書き出したデータセットを Microsoft Excel形式(.XLS)または Microsoft Access形式(.MDB)で出力することもできます。



画層ツール

画層を処理する2つのツールが、AutoCAD 2002 に新しく追加されました。

画層標準を適用ツールは、既存の図面または標準仕様ファイルを基準として使用し、画層の標準を別の標準に簡単に変換できます。画層標準を適用ツールは、CAD 標準管理 機能を補完し標準監査を素早く正確に修正できます。

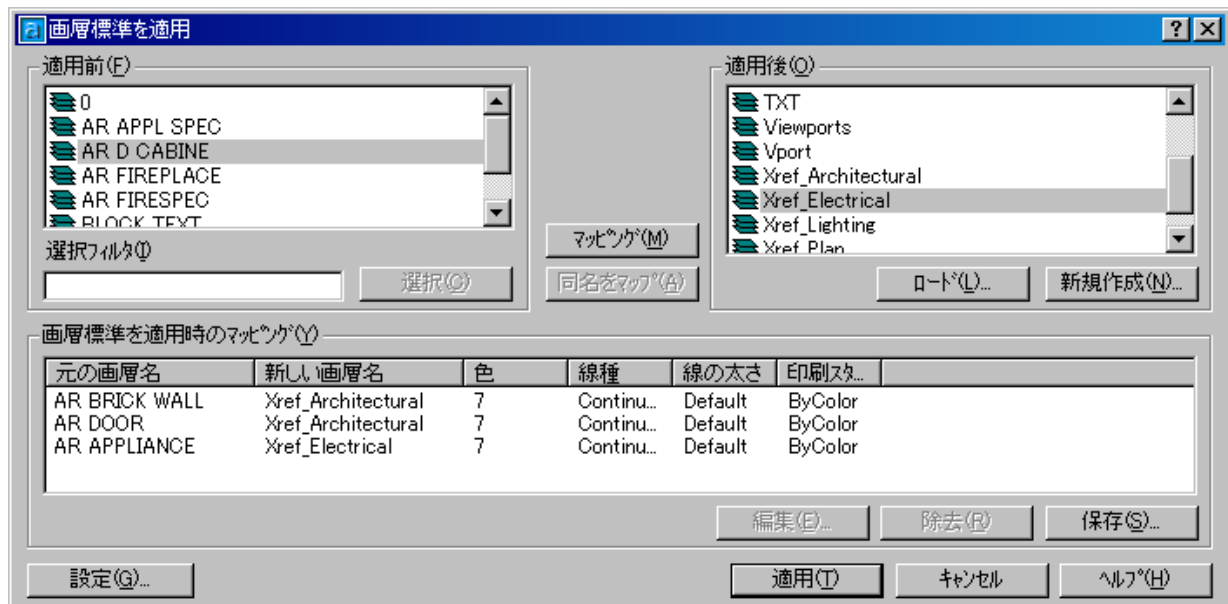
画層復元ツールは、UNDO [元に戻す]、ZOOM [ズーム]、画層操作の機能を向上させます。

画層標準を適用

画層標準を適用ツールは、既存の図面、標準仕様ファイル、図面テンプレートを基準として使用して、画層の標準または規約を別の標準または規約に変換することによって、データ共有処理の管理に役立ちます。

画層標準を適用ツールを使用すると、次のことが可能です。

- 画層の標準または規約を別のものに変換する
- 図形の色と線種を ByLayer に強制的に変更する
- 終了時に未参照の画層の名前を削除する
- 選択した画層にある図形だけを表示する
- DWG / DWT / DWS ファイルを参照画層として使用する
- その場で参照画層を新規作成する
- 既存の参照画層の画層プロパティを編集する
- 画層のマッピングを保存し再利用する

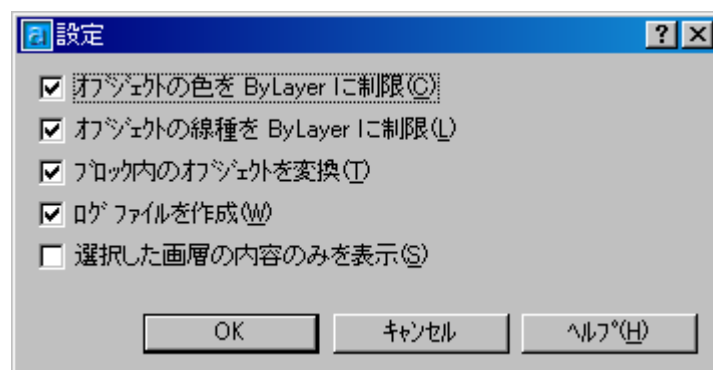


[適用前] リストには、現在の図面にあるすべての画層名がアルファベット順に表示されます。暗い画層アイコンは、その画層が参照されていて、名前削除できないことを示しています。白い画層アイコンは、その画層が参照されておらず名前削除できることを示しています。

[適用後] リストには、参照画層またはターゲット画層として使用される画層が表示されます。[適用前] リストで選択した画層は、[マッピング] ボタンを使用して、[適用後] リストの画層と対応付けることができます。

[画層標準を適用時にマッピング] は、選択したファイルに保存して、あとで再利用できます。これは、同じソースの別の図面に対して、同じ画層スキームを使用して同じ変換を行う必要があるときに便利です。

[設定] ダイアログ では、変換時の動作を設定できます。



画層復元

画層復元ツールを使用すると、UNDO [元に戻す]、ZOOM [ズーム]、画層操作の使い勝手が向上します。Zoom Previous [ズーム直前] コマンドと操作はほぼ同じで、図形の編集結果やズーム操作は元に戻さずに、以前使用した画層状態を復元します。

画層復元ツールは、次の画層プロパティを復元します。

- 表示のオン / オフ
- すべてのビューポートのフリーズ / フリーズ解除
- ロック / ロック解除
- 色
- 線種
- 線の太さ
- 印刷スタイル (名前付き印刷スタイルを使用している場合)
- 現在のビューポートのフリーズ / フリーズ解除

画層復元ツールには次の制限があります。

- 画層の名前を変更した場合は元の名前には戻りません。
- 名前削除された画層は再作成しません。また、追加された画層は削除しません。

Layer Previous [画層復元] コマンドでは、ダイアログは表示されません。また、コマンドラインで入力を求めることもありません。実行すると、操作が成功したか失敗したかを示すメッセージが表示されるだけです。

例:

コマンド: LAYERP

直前の画層状態はありません

コマンド: LAYERP

直前の画層状態に復元されました。

文字の尺度変更

文字の尺度変更（文字の表記サイズ変更）を大量のオブジェクトを対象に対して行わなければならないことがよくあります。今回、尺度変更コントロールと位置合わせコントロールが強化されたので、手作業による修正が減り、注釈のレイアウトが簡単になります。

AutoCAD 2002 の単位未指定と無限尺度の機能を使用すると、広範なデザインを各種設定でモデリングおよび印刷することができます。ただし、各種印刷尺度で固定文字サイズを指定する機能は、サポートが制限されています。

文字の尺度変更: SCALETEXT [文字尺度変更] コマンドは、相対尺度係数または特定の文字高さを使用して文字オブジェクトの高さプロパティを修正することによって、注釈オブジェクトのサイズを素早く変更します。

文字オブジェクトは、挿入ポイントまたは指定した位置合わせポイントを基準として、個別に尺度が変更されます。この点は、指定のポイントを基準としてすべての選択されたオブジェクトの尺度を変更し、各オブジェクトの挿入ポイントを調整する SCALE [尺度変更] コマンドとは異なります。SCALETEXT コマンドでは、別の位置合わせポイントが選択された場合、挿入ポイントが変更されることがあります。

AutoCAD 2002 は複数の位置合わせ基点をサポートします。文字オブジェクトの位置合わせポイントを変更する方法には、挿入ポイントを移動して文字の位置を保存するものと、保存しないで文字を移動するものがあります。JUSTIFYTEXT [文字位置合わせ] コマンドは、文字の位置を移動しないで文字の位置合わせを変更します。位置合わせポイントも挿入ポイントも位置が変更されます。

レイアウト内のモデル空間ビューポートは、1:1 以外の尺度に変更されることがよくあります。文字高さが同じでも、ビューポート内の文字が異なるサイズで表示されることもあります。SPACETRANS [空間での長さを変換] コマンドは、モデル空間またはペーパー空間の距離（通常は文字の高さ）を別の空間の等価な距離に変換します。このコマンドは、別のコマンドが距離を必要とするときに、正しい値を取得するために起動することができます。スタンドアロン モードで使用する場合、このコマンドは計算した値をコマンドラインに表示するだけです。

接続とコラボレーション

コラボレーティブなエンジニアリング環境では、エンジニア同士、エンジニアと発注者の間で、シンプルで使いやすい管理ツールを使用して、設計情報の交換を行うことから始まります。AutoCAD をプラットフォームとする場合、このコラボレーションは、インターネットを使ってリアルタイムに会議を行うオンラインミーティングの機能、Webに図面を公開する機能、データをパッキングして交換を行う機能を通して可能になります。以下にいくつかの例を挙げます。詳細については、以降の項目内で説明しています。

AutoCAD 2002 Today / 掲示板: 重要なデータは、エンジニアリング チーム全体に配布する必要があります。プロジェクト管理者は、電子メールを使用して情報を渡すこともできますが、図面の修正を全メンバーに許可するわけではなく、さらには非常に巨大な図面データを取り扱うわけです。管理者としては、ファイルを 1 箇所にまとめて、AutoCAD 2002 からアクセス可能にする方が便利です。AutoCAD 2002 Today の掲示板機能を使用すると、プロジェクト管理者は、必要な設計データをリス

トアップし AutoCAD 2002 からアクセスし使用できるようにするなど、チーム全体に重要な情報を公開することができます。

オンライン ミーティング: あるエンジニアが部品の設計作業の途中、設計チームのエンジニアと共同設計を行っているとします。仮にそのエンジニアが、遠隔地にいれば、図面を印刷して宅急便で送ることや電子メールで送って、後で議論することもあります。AutoCAD のファミリーでは、オンラインミーティングのセッション内で、図面をリアルタイムに共有し、課題を即座に解決することができます。

Web に公開: 図面が完成すると、設計チームのエンジニアとCAD 管理者のレビューを受ける必要があります。図面をチームのエンジニアに電子メールで送ることができます。または、図面の作成者が社内のWeb サイトに公開して、設計チームの全員が、図面をレビューしてコメントを述べることもできます。外部のパートナーや発注者が情報を共有する必要がある場合にも、図面をWeb サイトに公開する手法は有効です。

さらに、新規に機能追加した i-drop 機能を使うと、ブロック、シンボルおよび図面ライブラリをイントラネットやエクストラネットに公開することもできます。i-drop 技術は、必要なコンテンツを閲覧した後、対象のコンテンツを直接図面にドラッグして取り込むことができます。この機能は、コラボレーティブな設計プロセスを協力を支援します。

e-トランスミット: 図面をレビュー後、外部のパートナーに追加作業を依頼し、見積り用の図面としてメーカーに送ることもあります。この場合、図面を圧縮してフロッピーディスクに保存し、電子メールで送信することができます。外部参照の図面やフォント ファイル、印刷スタイルなどをすべての関連図面をもらすことなく送付することは簡単ではありません。e-トランスミット機能は、必要な情報を自動的に1つにまとめ、圧縮した後にパスワードで保護して配布することができます。

AutoCAD 2002 の場合、e-トランスミットでも標準審査用の設定ファイル（図面に関連付けられた DWS 標準仕様ファイル）も自動的に含めることができるので、このコラボレーション ツールの価値はさらに効果的です。設計チームの誰もが、1つの標準に基づき作業することができます。

ファイルの操作: どのアプリケーションでも、最も多く使用されるのはファイルのオープンと保存のダイアログです。AutoCAD は、この基本的なファイル アクセス機能を拡張して、ローカル ドライブ、ローカル ネットワーク、インターネットにまたがるデータを管理する機能を備えました。ファイル操作 ダイアログでは、Microsoft Office 2000 の標準ダイアログと同じ外観と操作性を備えており、この機能を利用してネットワークワイドのコンテンツにアクセスできます。しかし、最も効果的な機能はそのデータ管理機能にあります。

設計現場では、社内外の多くの設計者がデザイン コンテンツにアクセスし、設計を行います。設計情報は、その企業内で厳重に管理されます。AutoCAD 2002 および AutoCAD 2002 ベースの製品では、社内外の設計チームのメンバー全員がファイル操作ダイアログから、Web を経由してコラボレーションとデータ共有を行うことができます。さらに、設計情報を収める簡単な Web ストレージが必要な場合は、Point AのMy Filesのサービスをファイル操作 ダイアログから直接利用することが可能です。この機能では、Buzzsaw.com を利用しています。（現状では、日本語対応のサービスを行っていません。）

独自の Web ストレージを所有する企業では、サード パーティが提供するWeb ストレージを使用している場合は、そのサービスを統合することもできます。AutoCAD 2002 では、ファイル操作内部の My Web Places コンポーネントおよび FTP コンポーネント経由で、そうしたストレージ機能を使用することができます。

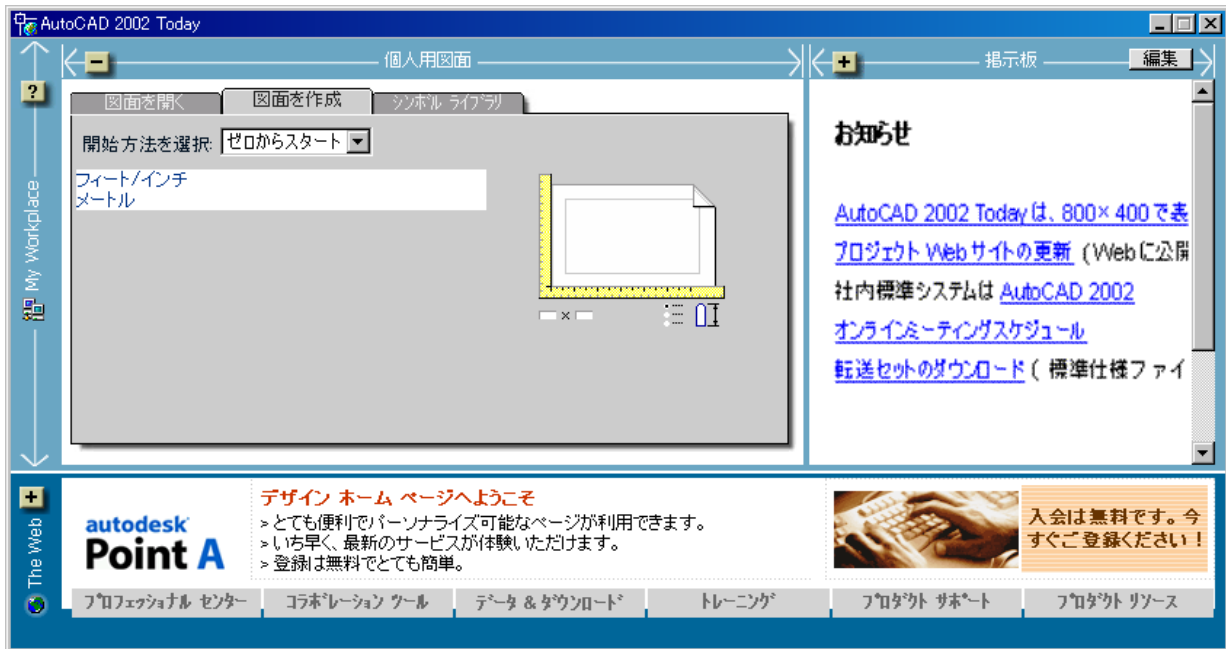
DWF: 設計会社にとって大きな課題は、知的財産の権利保護と賠償責任の緩和に関する対策です。ハード コピーの出力とレビューのために、外部のパートナーに図面を送る場合です。DWG ファイルをそのまま送ってしまうと、外部のパートナーが図面を変更する恐れがあるという点です。

新しい高解像度のDWF フォーマットでは、高品質の表示はもとより、もとの DWG と同じ品質の図面として印刷できます。したがって、官庁承認のためにファイルを送信し、変更依頼のために図面を転送する場合は、新しい高解像度の DWF ファイルは、図面表示の品質を保ちつつ、図面の著作権を維持することができます。

AutoCAD 2002 Today

AutoCAD 2002 Today ウィンドウ内の掲示板は、800x400 に最適化され Web サイトを表示できるように機能拡張しました。掲示板の「+」記号をクリックすると、表示を最大化できます。

最小化前:



最大化後:



オンライン ミーティング

オンライン ミーティング機能は、イントラネットやインターネット上で会議を開催するMicrosoft の NetMeeting技術を利用、統合しています。オンライン ミーティングは、設計チームのエンジニアやパートナーと話し合い、協力して設計を行う手段として有効に利用できます。また、CAD管理者は AutoCAD の新機能など、最新の設計情報を自分のデスクトップから多数のユーザに伝えることができます。CAD 管理者は、設計者がどこにいてもオンラインで設計内容を検証し、設計の変更箇所を指示することができます。



オンライン ミーティングの機能の一部を以下に紹介します。

AutoCAD からオンライン ミーティングを起動: オンライン ミーティングは、AutoCAD 上から NetMeeting プログラムを自動的に起動して会議を開始します。AutoCAD を使用しながら簡単にネット会議を開催できます。

AutoCAD セッションを自動的に共有: 会議を開始すると、オンライン ミーティング機能により、AutoCAD のセッションを自動的に別の設計者と共有します。別の参加者が会議への接続を確立すると、その AutoCAD のセッションが、参加者のモニタに自動的に表示されます。設計チームがデザインレビューを行う場合、共同作業のための打ち合わせ、または新しい機能についてのトレーニングなどの場面で効果的です。

Autodesk ILS サーバ: Autodesk ILSサーバは、Net Meetingを使用中のユーザの名前を一覧リストに追加して表示します。Autodesk ILS サーバにアクセスすれば、ユーザは通話先を簡単に見つけることができます。

Web に公開

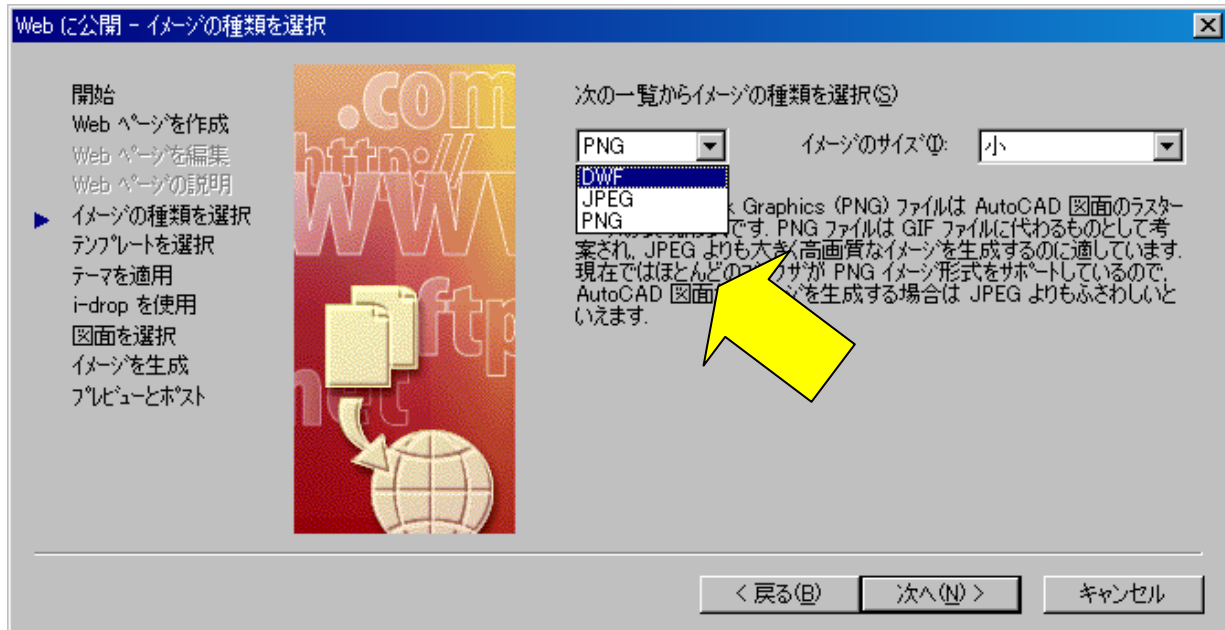
この機能は、AutoCAD の図面データを含む Web ページを簡単に作成する仕組みとして、AutoCAD 2000i から導入されました。この機能は、HTML コードの生成や画像の出力などの細かな部分をすべて自動的に処理するウィザード形式となっています。Web ページ作成の知識がほとんどない人でも、すぐにこの機能を使用できます。

AutoCAD 2002 では、重要な機能強化を行いました。テンプレートの追加とテーマの導入によって、Web ページの表示方法をこれまで以上に柔軟にコントロールできます。

さらに、テンプレートが拡張可能になったので、追加テンプレートを統合することができます。この機能強化により、さらに使いやすく、Web に公開するプロジェクトの一層強力なコントロールが可能になっています。

また、i-dorp の技術を統合し、設計データをWebから配布する仕組みを簡単に提供できるようになりました。Web サイトからコンテンツを直接図面ファイルにドラッグ挿入できるようになります。

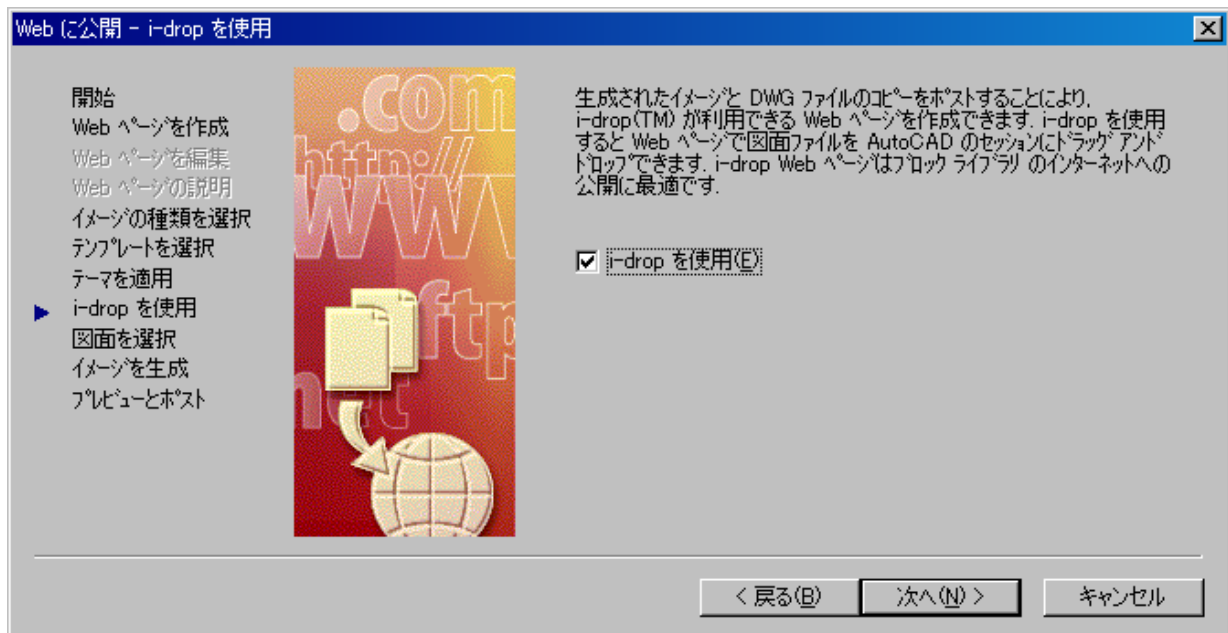
この機能の変更点として、3つのファイルタイプ (DWF、JPEG、PNG) ごとに異なる公開サイズを選択する機能があります。これにより、Web サイトにポストする画像サイズをこれまで以上にコントロールできます。



Web ページの見栄えを決める、テーマを選択できるようになりました。テーマは、Web サイトに適用できる色とフォントのテンプレートです。



i-drop 技術を利用して設計データを公開すると、誰でも Web サイトからコンテンツを直接図面ファイルにドラッグできる Web サイトを簡単に構築できます。



i-drop

i-drop は、Web ページから設計ツールにデザイン コンテンツを直接ドラッグできる仕組みを提供します。この Web コンテンツは、設計者と開発者が自ら作成できる新しい技術です。

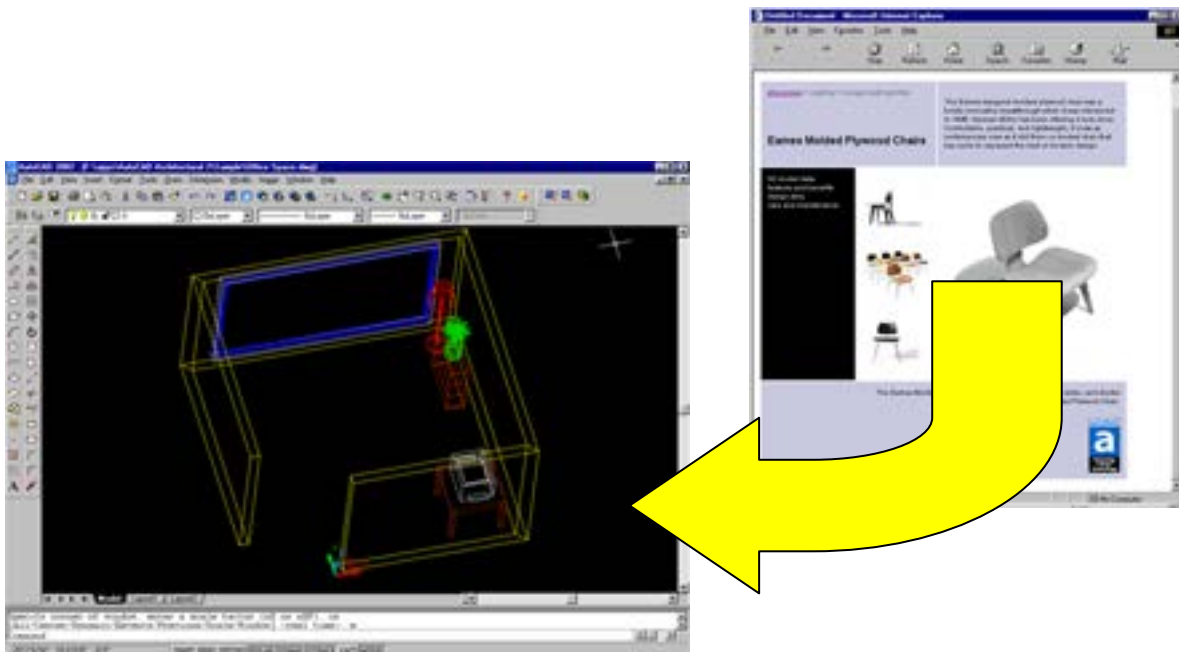
たとえば、照明器具のデザイナーが AutoCAD または 3D Studio VIZ[®] で特定の取り付け金具が必要になったとします。照明器具の会社の Web サイトの取り付け金具のライブラリを閲覧して、適切な金具を設計セッションにドラッグできると考えてください。

ダウンロードしてから挿入するといった手法ではなく、i-drop 対応の Web サイトから、どんな DWG ファイルや VIZ ファイルでもドラッグして、その図形を直接、オートデスク 製品にドロップできるのです。

さらには、図形のほかに、メーカーから入手したい、測光データや価格情報、材料などの情報についても、i-drop 技術を使用して、設計ツールの中に取り込むことが可能となります。

i-drop は XML ベースの技術です。そのため、オブジェクトの図形データ以外に運ぶことのできるデータの種類には制限がありません。どんなコンテンツを提供するかはシステム デザインに依存します。

AutoCAD 2002 の Web に公開 機能では、i-drop を含むブロック ライブラリまたは図面公開の Web サイトを作成し、デザイン コンテンツを提供することができます。

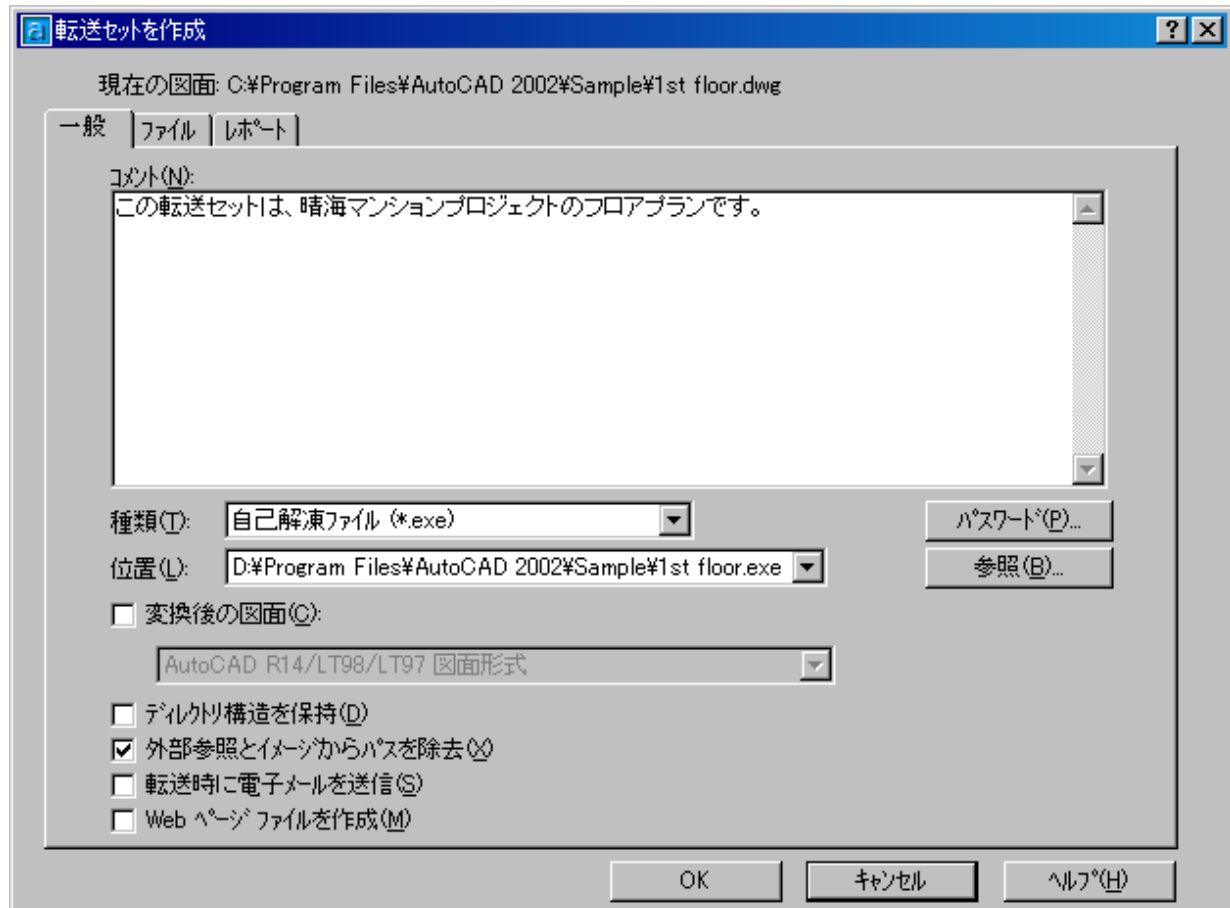


i-drop コンテンツを提供するメーカーの Web サイトには、Autodesk i-drop ロゴがついています。このコンテンツを提供するプロバイダのリストは、i-drop Web サイト (<http://idrop.autodesk.com>)にあります。

e-トランスミット

e-トランスミットは、現在開いている図面に関連するすべてのファイルや外部参照をまとめてパックにし、遠隔地の設計チームに送信する機能です。e-トランスミットを使用すると、関連する設計ファイルを実際にまとめることができるため、誤送による混乱や確認作業などの余計な作業を減らすことができます。

e-トランスミットによって、設計ファイルが簡単に共有できるようになります。社内だけでなく、関連会社と設計チームのメンバー、サプライヤ、顧客の間で設計情報を共有できます。



e-トランスミットの機能の一部を紹介します。

圧縮: 転送セットの作成時に、自己解凍ファイルまたは .ZIP ファイルを作成できます。圧縮によりファイルサイズが小さくなり、転送のオーバーヘッドが減少します。

セキュリティ: 自己解凍ファイルまたは .ZIP ファイルをパスワードで保護できます。パスワードによる保護は、設計情報のセキュリティを強化します。

電子メールによる通知: 転送セットを、電子メールに自動的にアタッチして相手に送信する機能です。受取側にファイルの場所やパスワードなど、転送セットに関する情報を簡単に伝えることができます。

Web ページの作成: 転送セットをインターネットやイントラネット上から入手できるように、転送セットへのリンクを持つWebページ ファイルを作成する機能です。電子メール システムに負担をかけずに、設計データの通信、交換を行えます。

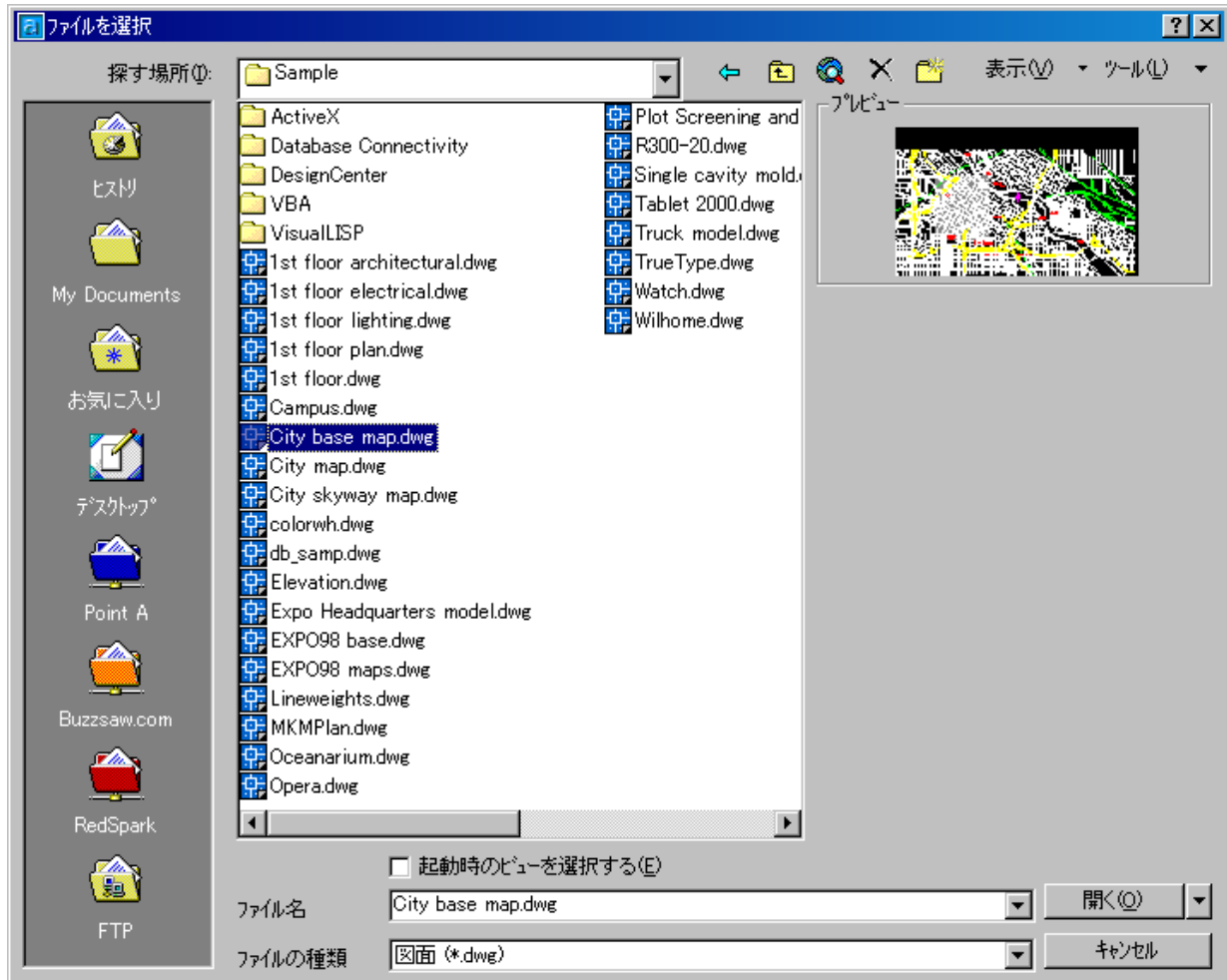
AutoCAD 2000 および AutoCAD R14 形式の DWG ファイルのサポート: AutoCAD 2000 または AutoCAD R14 のファイル形式で転送セットを作成できます。この機能は、まだ AutoCAD 2002 に移行していない設計パートナーとの通信に効果的です。

レポート作成: 転送セットに関するログ情報を生成する機能です。パッケージしたファイルやエラーなどに関する情報が記録されます。転送セットに関する レポートを作成でき、転送作業の監視と管理、転送済みファイルや未転送ファイルの確認に使用できます。

標準: e-トランスミットは社内図面標準の機能も考慮しています。この機能により、社内図面標準の機能がさらに高まります。転送セットを作成する際、図面に関連付けられた社内図面標準で使用する標準仕様ファイル (DWS) を転送セットに含めます。この機能によって、設計チームの誰もが、共通の標準仕様ファイルを使用して設計を進めることができます。

ファイル操作

ファイル操作機能がさらに強化されました。AutoCAD 2002 では、[ファイル操作] ダイアログの [検索場所一覧] のサイド バーに独自のフォルダを追加できるようになりました。よく使用するフォルダをこの [検索場所一覧] のサイド バーにドラッグするだけで追加でき、使いやすくなりました。



DWF フォーマットのアップデート

ePlot (電子的な印刷) の概念は、公開文書に対する PDF と類似した位置付けです。設計およびエンジニアリングの分野における、同様の役割を確立するために、AutoCAD 2000 で導入されました。

ePlot は、高圧縮、Web 対応、移植可能、セキュア、高精細という特徴を備えたファイル形式で、設計情報を流通する用途で効果的です。

ePlot は、AutoCAD 2002 の印刷のデバイスドライバを通して作成され、DWF (Drawing Web Format) ファイル形式で保存されます。作成された DWF ファイルは、オートデスク のビューソフト Volo 製品を使用して表示、印刷が可能です。DWF は、インターネット経由で設計チームが設計情報を交換するのに最適なフォーマットです。設計チームの各メンバーは、設計内容の表示、修正指示を簡単に行えるようになります。

AutoCAD 2002 では、DWFの仕様が向上し、AutoCAD から印刷するのと同じ高品質で、Volo 製品を利用して、ハードコピー印刷ができるようになりました。

以下は主な機能強化点です。

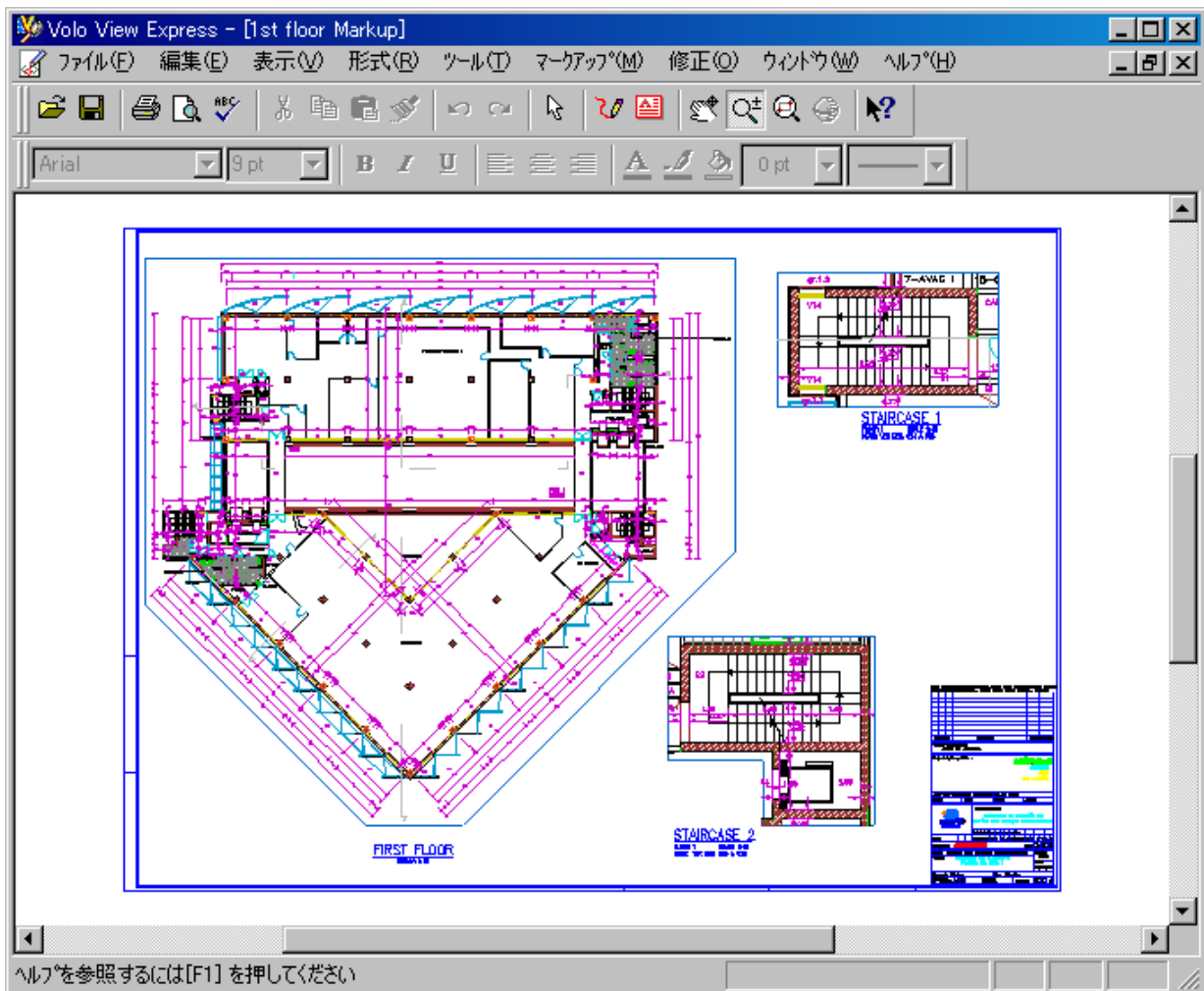
- 印刷用 ePlot ドライバの最適化
- 表示用 eView ドライバの最適化
- 重ね書きコントロール、ISO標準の線種、塗り潰しパターンのサポート
- DWF 出力の色設定コントロール
- True Color 印刷スタイルのサポート
- ラスタ出力のコントロール強化
- ラスタ データの効率的な保存 (PNG および Group 4 TIFF)
- ファイル サイズ、構成の最適化の改善

Volo View と Volo View Express

オートデスクのビューワ製品である Volo View を使用すると、AutoCAD の図面のオープン、表示、マークアップ、印刷を行うことができます。

Volo View は、AutoCAD に依存することなく使用することができます。Autodesk Inventor™、Autodesk Mechanical Desktop、Autodesk Architectural Desktop のファイルも、Autodesk Object Enablers をオートデスクの Web サイトからダウンロードして表示できます。Volo View を使用すると、設計チームの誰もが図面を共有できるようになり、コミュニケーションを密にし、設計プロセスを合理化してプロジェクトの実行サイクルを短縮します。

Volo View Express は、AutoCAD 2002 に同梱されている無料のビューワであり、Web に公開の機能と ePlot によって作成された新しい DWF 形式のファイルを表示できます。



DesignXML

DesignXML は、DWG 図面データを XML データとして表現するためのオートデスクが提唱する、デザインデータを統合するための第 1 段階です。XML はインターネット上のデータコミュニケーションの共通言語です。

DesignXML はグラフィカルデータと非グラフィカルデータの両者を公開するために規定した XML スキーマによって表現します。最初の DesignXML チャンネルである AcDbXML は、DWG ファイルの内容を XML データとして記述し、DWG データの品質を低下することなく他のシステムに渡します。

XML の利点をいくつか紹介します。

- XML は、インターネット用に設計されたメタマークアップ言語で、特定の言語または業務分野（設計分野）向けのマークアップ言語を、データ作成者が定義することができます。タグの種類が固定されている HTML とは違って、XML では新しいタグを定義できます。
- XML は人間が判読可能な階層的フォーマットで、各種のエディタ、パーサ、ブラウザなどのアプリケーションによってサポートされており、今後さらに関連のツールが増えるでしょう。
- XML は、カスケーディングスタイルシートなど、HTML の利点も多く活用しています。
- Java を「ポータブルコード」と見なせるのと同じ意味で、XML は「ポータブルデータ」と考えられています。

DesignXML は、AutoCAD データを XML で表現するためのスキーマの名称でもあります。スキーマは、公開されたデータ処理の辞書と考えることができます。アプリケーションが、DesignXML データ（図面）に含まれるデータを利用する場合、BizTalk サイトを参照することで DesignXML ドキュメントに含まれるタグ定義を入手することができます。

ある一面では、DesignXML を「Web 対応」の DXF と考えることができます。DesignXML のような XML スキーマが DXF のようなフォーマットよりも優れている点は、オープンであることと、CAD 分野に限定しない広い業務分野で使用されている点です。DesignXML の定義（線、円弧、文字などの DWG 図形の XML による表現方法）は Web で公開され、誰でも参照できます。XML は構文解析と検索が容易で、ネットワークでファイル全体を探さなくても、必要な情報を素早く抽出できます。

XML に対応したツールは多数存在し、DXF よりも XML に精通したプログラマのほうがたくさんいます。最近では、ハードウェアベンダも XML 専用製品を開発しています。たとえば、Intel は、XML データストリームをインテリジェントに分類、転送、キャッシュする一連の XML アクセラレータを開発しました。

AutoCAD の DesignXML 機能には専用の GUI コマンドはありません。

この機能は、次の 2 のコマンドによって使用します。

- [ブロック書き出し] により、図面全体または選択オブジェクトを DesignXML ファイルに書き出します。
- [ブロック挿入] は DesignXML ファイルを現在の DWG 図面に読み込みます。

オートデスク Point A

オートデスク Point A は、業種に特化したポータルサイトです。設計情報を検索する時間を節約し、設計チームのコミュニティ作りに役立ちます。

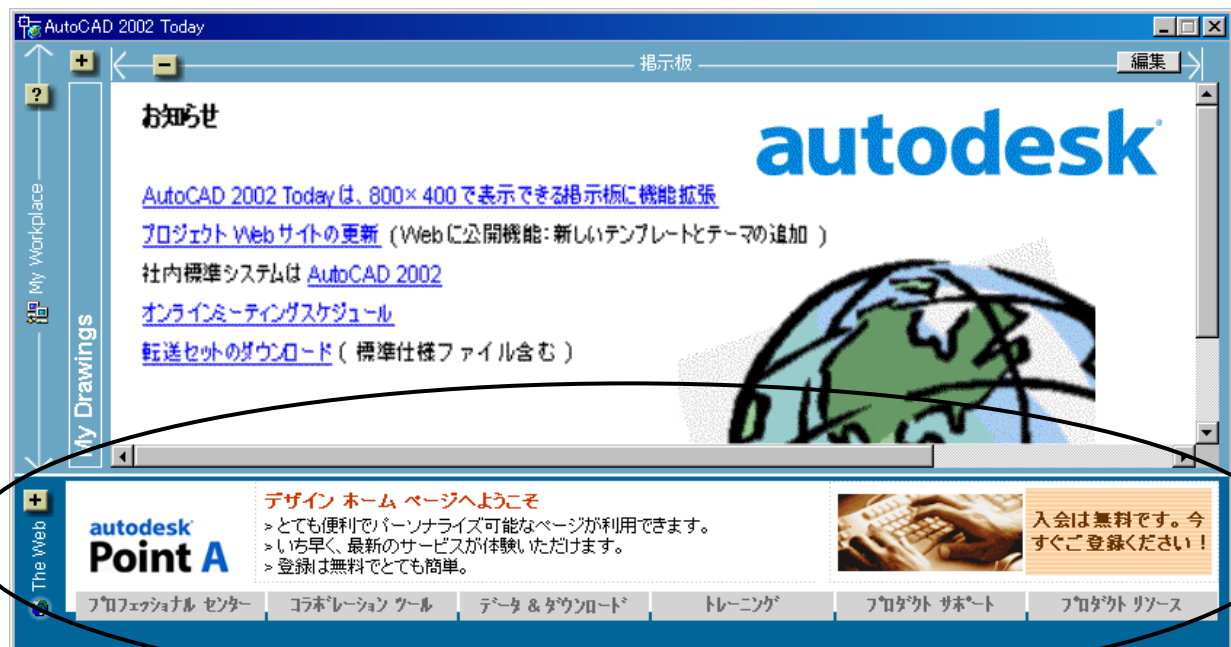
オートデスク Point A は、インターネット上で行う様々な活動の出発点です。

オートデスク Point A では、次の機能が利用可能です。

- 業界別のニュース、リンク情報
- 部品、材料、シンボルのデータベース検索
- 設計チームのコラボレーション効率を高めるプロジェクトホスティングサービス
- ソフトウェアのアプリケーション情報
- オートデスク製品を活用するのに役立つ製品サポート情報、製品のヒント、掲示板、オンライントレーニング、書籍情報などの情報



これらの情報は、AutoCAD 2002 Today ウィンドウからインターネット経由でアクセスします。デザイン上の課題検討、標準化情報の調査、質問、トレーニングがすべて、AutoCAD 2002 を使用中に利用できます。



オートデスク Point A では、最大容量 25 MB のエクストラネット サービスを利用可能です。AutoCAD のファイル操作ダイアログを使用して、世界中に点在するチーム設計メンバーであっても、ファイルを安全に開き、保存し、共有することができます。

この機能は、日本語化の対応がされておりません。従いまして、日本語のフォルダ、ファイルの記述はご使用になれません。

社内図面標準の管理

既に、設計者はコラボレーションとデータ共有が必要となる、プロジェクト運営の環境下で仕事をしています。事業のグローバル化に伴い、動きの速いプロジェクトでは、組織内の個人と事務所、組織相互の間でデータを共有することが必須となりました。

標準を確立していない設計データを交換することで、修正に対する莫大な費用と時間、それに付随するミスが発生する可能性を拡大しています。

CAD 管理者の重要な任務の 1 つは、標準を確立し、管理することです。オートデスク が 300 人の CAD 管理者を対象として実施した調査では、90 % が社内標準を使用し、80 % が社内標準の重要性を認識している事がわかりました。社内標準を使用している人の大半はツールがない、または、社内開発したツールの保守が難しいために管理に手間がかかると答えています。

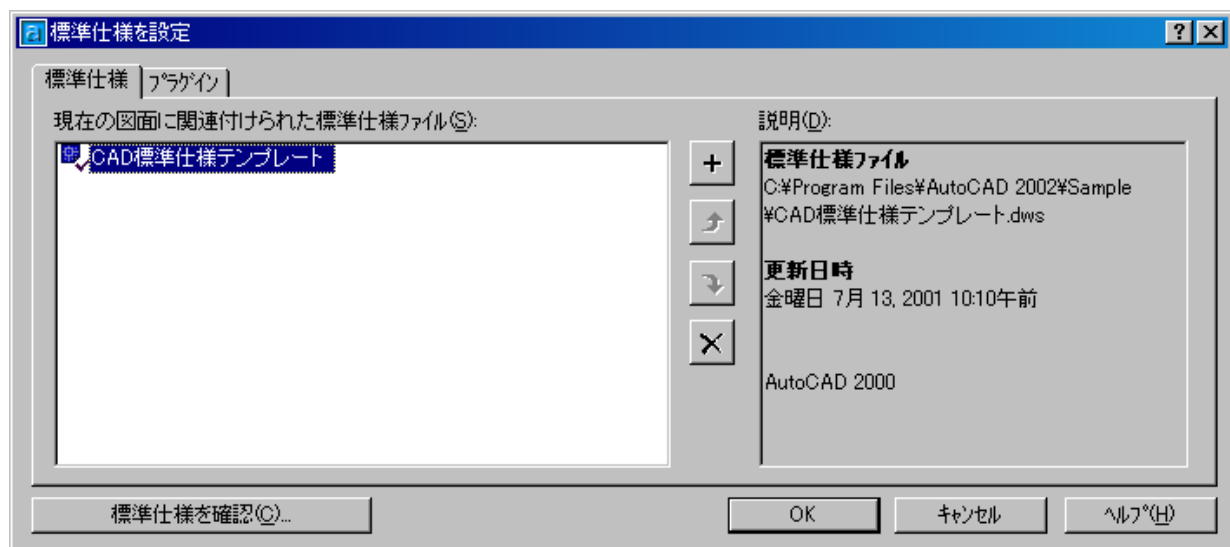
社内図面標準の機能により、CAD 管理者は、標準に準拠しているかチェックし、社内標準への準拠を協力を推進することができます。

設計チームのコラボレーション、設計プロセスの効率化、投資効果を改善することができます。標準仕様ファイル (DWS) を AutoCAD 図面に関連付け、対話型の監査とバッチ型の監査が可能で、関連付けられた標準仕様ファイルとの相違点を確実に確認、修正する手段になります。

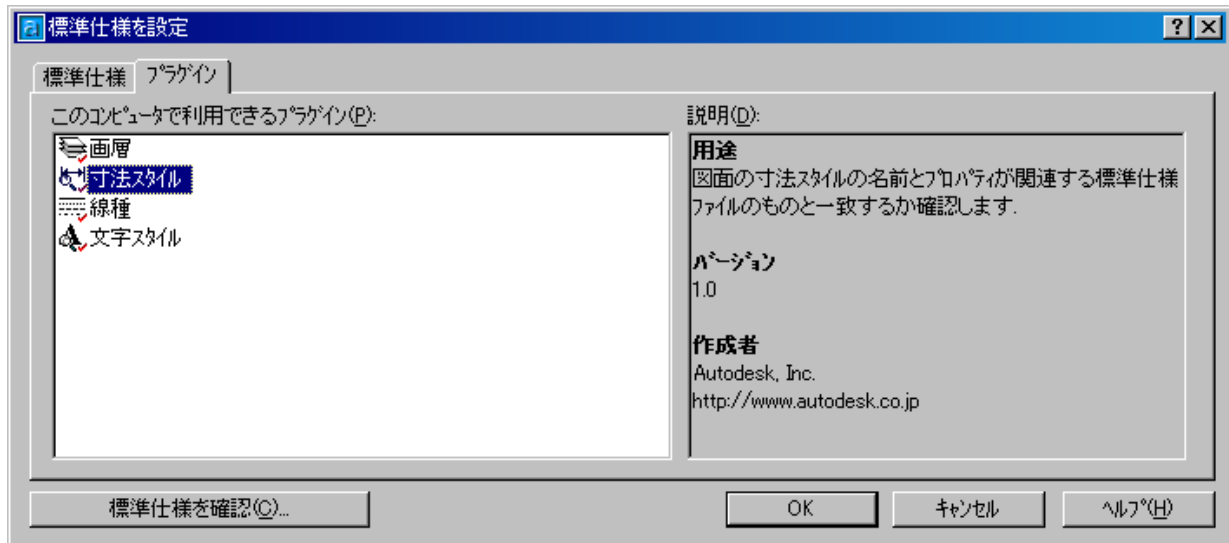
CAD 標準管理

CAD 標準管理は、現在の AutoCAD の図面に標準仕様を関連付け、プラグインを管理するのに使用されます。

[標準仕様] タブには、現在の図面に関連付けられたすべての標準仕様ファイルが表示されます。このリストから個別の標準を選択すると、その標準に関する要約情報が [説明] に表示されます。標準は、追加、削除および優先順位の変更が可能です。



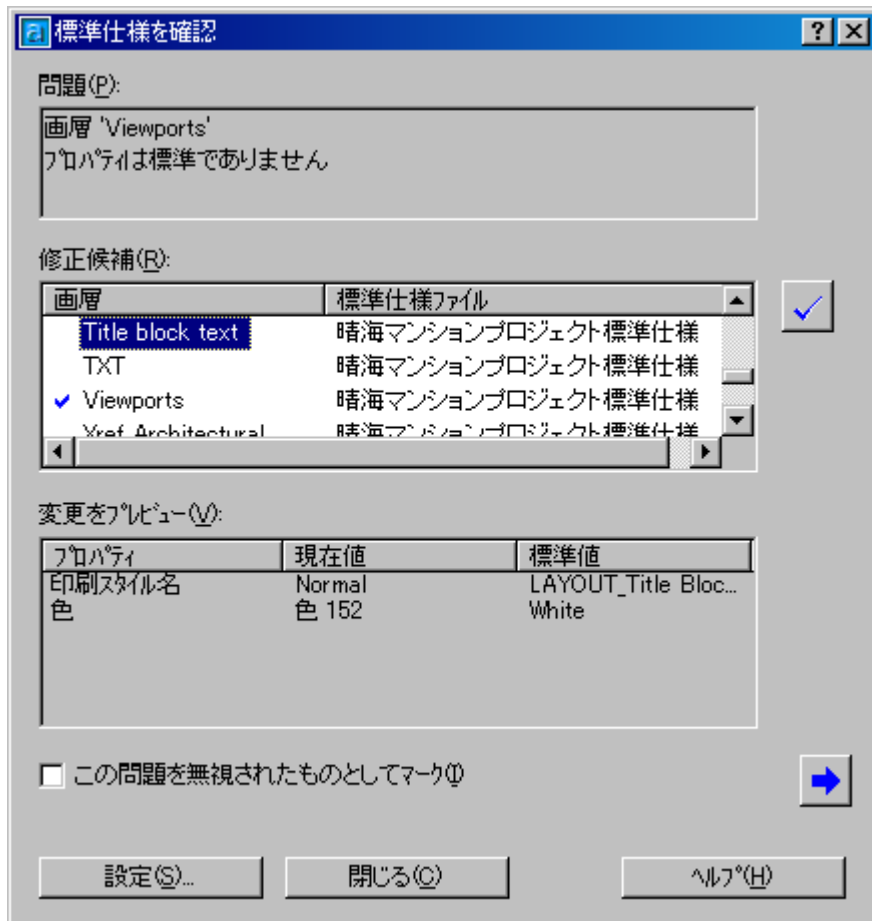
[プラグイン] タブには、現在のシステムに存在する標準のプラグインの一覧が表示され、個々のプラグインに関する要約情報が示されます。



対話型の監査

ワープロ ソフトのスペル チェッカーと同様に、標準の対話型の監査では、関連付けられた標準を基準に現在の図面をチェックし、相違点を報告し、適切な修正案を示します。

修正案をそのまま採用することも、監査処理を中断しないで、AutoCAD の問題を手作業で修正することもでき、または、問題点を無視することもできます。(例えば、図形の構築時にはこれが適切です。) 無視した問題点は、ユーザ設定によっては、以後の監査で報告されることがあります。

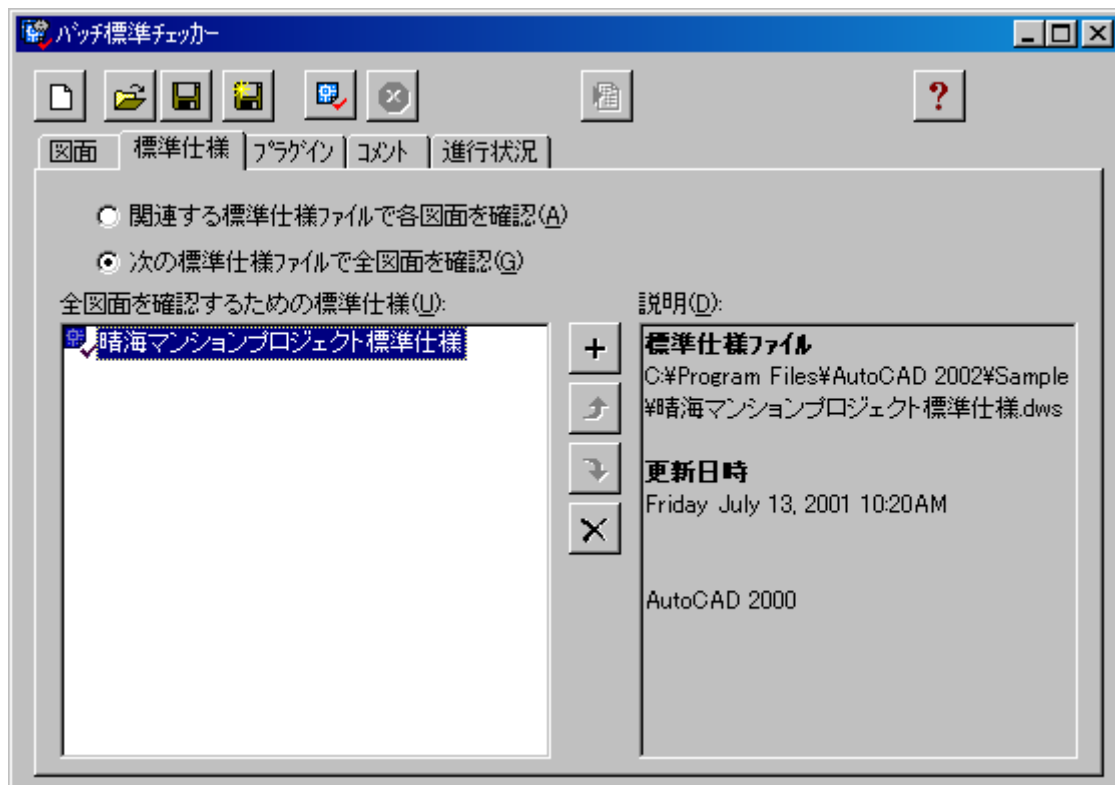


バッチ監査

バッチ標準チェッカーは、複数の図面を対象にバッチ監査を実行し、XML ベースのブラウザで表示可能な標準監査レポートを作成します。



個々の図面に対し、をそれぞれに関連付けられた標準仕様ファイルを基準にチェックすることも、1連の図面を1つの標準仕様ファイルを基準にチェックすることもできます。複数のバッチ監査の設定を外部設定ファイルに保存し、後からで再利用することができます。



この機能のコマンドラインで実行するコマンドは、定期的バッチ標準チェックやサーバ環境で使用できます。

要約レポート情報

レポート ファイルは、バッチ標準チェッカーがバッチ監査を完了すると、自動的に表示されます。バッチ監査を実行した後、バッチ標準チェッカーの [レポートを表示] ボタンをクリックしても表示できます。

図面標準の監査レポート - Microsoft Internet Explorer

アドレス(D) file:///D:/Program%20Files/AutoCAD%202002/viewreport.htm?C:/Program%20Files/AutoCAD%202002/Sample/Check1.chx

標準監査レポート

監査レポート ファイル: **C:/Program Files/AutoCAD 2002/Sample/Check1.chx**

概要

作成者: **Administrator**

作成日: **07/13/01 10:28:15**

表示:

- 概要
- プラグイン
- 標準
- 問題
- 無視された問題

対象:

- All Drawings
- 1st floor architectural.dwg
- 1st floor electrical.dwg

要約:

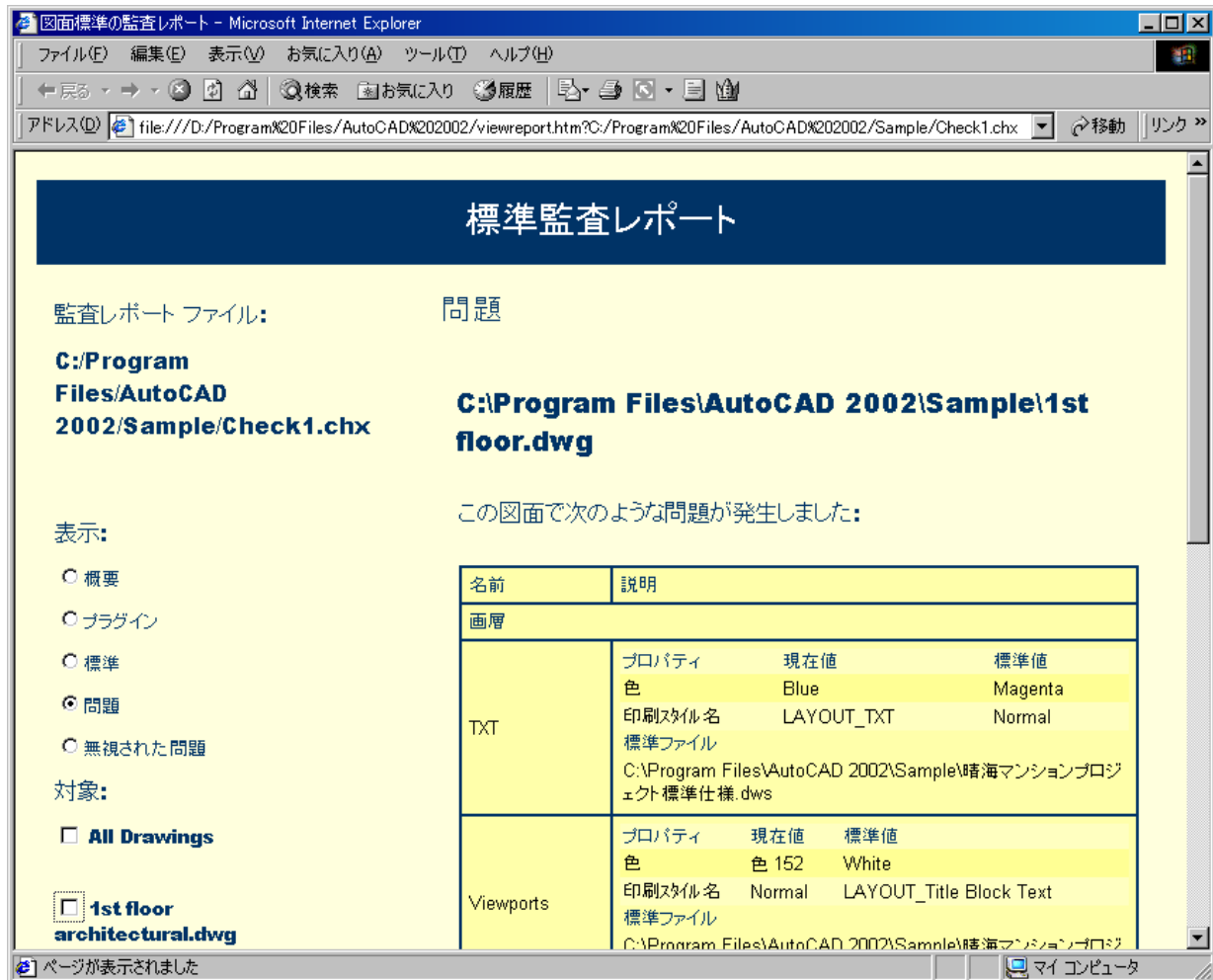
図面	問題	無視された問題
1st floor.dwg	28	0
1st floor electrical.dwg	13	0
1st floor lighting.dwg	14	0
1st floor plan.dwg	24	0
1st floor architectural.dwg	17	1
Totals	96	1

監査された図面:

ページが表示されました

マイコンピュータ

[問題] ボタンをクリックすると、レポートが絞り込まれ、各図面に見つかった標準監査要約が表示されます。



ライセンス

FLEXlm ネットワーク ライセンス対応

500 を超える大企業が GLOBEtrouter 社のソフトウェア資産管理製品を使用し、2,000 を超えるソフトウェア メーカーが FLEXlm を使用しています。

また、総額 400 億ドルを超えるサードパーティ ソフトウェアが GLOBEtrouter の NLM (Network License Management) 技術である FLEXlm™ を使用しています。FLEXlm は、20,000 を超える製品に組み込まれており、他のライセンス管理ソフトよりはるかに多い実績を持っています。

柔軟なライセンス モデル

プロジェクトタイプの仕事では、短期間に多くの AutoCAD のライセンスが必要になることがあります。これまでは追加でライセンスを購入することが必要でした。

このような場合、AutoCAD 2002 のレンタル ライセンスが効果的です。ライセンスのレンタルなので、資産ではなく、経費として計上することができます。また、この経費は、特定のプロジェクトに対し支払われるものですから、そのプロジェクトに対し請求することができるでしょう。

レンタル ライセンスは、通常の AutoCAD 2002 の製品と同様に購入することができます。レンタル製品には、レンタル期間に応じたシリアルナンバーがついています。レンタル製品を入手後、通常の製品と同様にインストールを行ってください。通常のユーザ登録の方法でオーソライゼーションコードを入手してご使用ください。レンタル期間は、ユーザ登録時から開始されます。

容易なセットアップと実装

Windows 環境: AutoCAD 2002 は、Windows 98、Windows Millennium Edition、Windows NT[®] 4.0、Windows 2000およびWindows XP Professional の Microsoft[®] Windows[®] デスクトップ環境向けに開発された製品です。Windows 95 は AutoCAD 2002 ではサポート対象外となりました。

DWG ファイル形式: AutoCAD 2002 の DWG 形式は、AutoCAD 2000 および AutoCAD 2000i から変わっていません。DWG 形式を変更しないことによって、オートデスク は 100 % のファイル互換性を保証し、すでに業務で使用している AutoCAD の図面ファイルに対する投資を無駄にしません。

スクリプトおよびカスタム アプリケーションとの互換性: AutoCAD 2002 は、AutoCAD 2000 および 2000i 用に作成されたアプリケーションおよびスクリプトとバイナリ互換性があります。現在 AutoCAD 2000 および 2000i で動作する ObjectARX アプリケーションと LISP プログラムはすべて、AutoCAD 2002 でも動作し、既存のアプリケーションと環境設定への投資を無駄にしません。

ハードウェア ロックの廃止: これまで使用してきたハードウェア ロックに代わり、ソフトウェアライセンス管理 (SLM-Software License Management) が採用されました。これにより、ハードウェアロックに比べて、信頼性、移植性およびユーザの柔軟性が大幅に向上します。

autodesk[®]

オートデスク株式会社

Autodesk、AutoCAD、AutoCAD Map、ObjectARX、Heidi および 3D Studio VIZ は、米国およびその他の国における Autodesk, Inc. の登録商標です。i-drop、Visual LISP、AutoCAD DesignCenter、AutoSnap、AutoTrack、ObjectDBX、DXF、AutoCAD Learning Assistance、Volo および AutoCAD Architectural Desktop は、米国およびその他の国における Autodesk, Inc. の商標です。その他のすべてのブランド名、商品名、商標は、それぞれの権利保有者に帰属します。

© Copyright 2001 Autodesk, Inc. All rights reserved.